

授業計画書 2023

中部地区医師会立
ぐしかわ看護専門学校

成績評価方法

【成績評価方法】

・単位認定・進級及び卒業認定の成績評価は本校学生便覧の「履修規程」の評価基準で行う

評価	評点
優	80 点以上 100 点
良	70 点以上 80 点未満
可	60 点以上 70 点未満
不可	60 点未満

【大学等修学支援の下位 1/4 の評価方法】

・各科目の点数を GPA のポイントに置き換え算出。

評価点数	評価表示方法	ポイント
93 - 100	A	4.0
90 - 92	A-	3.7
87 - 89	B+	3.3
83 - 86	B	3.0
80 - 82	B-	2.7
77 - 79	C+	2.3
73 - 76	C	2.0
70 - 72	C-	1.7
67 - 69	D+	1.3
63 - 66	D	1.0
60 - 62	D-	0.7
59 - 0	F	0

各分野の考え方

基礎分野の考え方：

学生が、看護の対象である人間の「命」を見つめ「生命の尊厳（命どう宝）」を基本に豊かな人間性を培い、看護専門職として発展していける思考の基盤づくりを目指す。

＜科学的思考の基盤＞では、論理的・批判的な思考の育成と表現する能力を養うために「論理的思考法」を設定し、情報を科学的にとらえ分析・処理・選択する能力を育成するために「情報科学」、「情報リテラシー」を設定した。教育の基礎的知識を培い、主体的判断と行動を促すための意図的・系統的働きかけを学ぶことを目的として「教育学」を設定した。

＜人間と生活、社会の理解＞では、人間を理解するために人間とは何かを深く掘り下げ、生きることの意味や人間の行動を決定するものは何か、「生命の尊厳（命どう宝）」とは何かを学生自身で思考させるために「生命と倫理学」、「心理学」、「人間関係論」を設定した。また、社会との関わりに関心を持たせ、社会生活の中で国際的視野を持って積極的に学習し行動できる人間を育成するために、「社会学」、「文化人類学」、「生活環境論」、「臨床英語」を設定した。さらにコミュニケーション能力としての「読む・書く・表現する能力」と個々の感性を磨くために「コミュニケーション論」を設定した。

専門基礎分野の考え方：

＜人体の構造と機能＞では、看護に必要な基礎知識である人間の構造と機能を理解するために、系統別に「形態機能学Ⅰ～Ⅲ」、さらに形態機能と人の日常生活と看護の視点で捉え、臨床判断の基本的視点を学ぶために、「形態機能学Ⅳ」を設定した。さらに、人間の生命維持や健康の保持に関して理解するために「生化学」、「栄養と健康」を設定した。

＜疾病の成り立ちと回復促進＞では、人間が健康を障害していく原因や疾病に罹患する過程とその治療方法を「微生物学」、「病理学」、「病態生理学Ⅰ～Ⅴ」、「薬理学」を学ばなかで理解する。

＜健康支援と社会保障制度＞では、生活している人間、その周りを囲む環境を幅広く理解するために「公衆衛生学」、「社会福祉」、「社会保障」を設定し、さらに、看護のなかで知識として必要とされる関係法を理解するために「看護関係法令」を設定した。また、人間がセルフケアを高めるための方法を学び、地域医療に貢献できるとともに国際社会の諸活動へも参加する指定をもてるなど幅広い学びができるように「現代医療論」を設定した。

専門分野の考え方：

＜講義・演習＞

看護職を実践するものは、人間理解と疾病の基礎的知識を持つことが必要である。基礎看護学では基礎的看護技術（基本共通技術、日常生活援助技術、診療に伴う援助技術、フィジカルアセスメント）を学び、看護の対象である人間のライフサイクルで起こる健康問題に関する援助の方法を習得する。ライフサイクルにおける人間の特徴を理解し、個々の人間の全体像を描きながら、専門的な看護の知識と技術を学ぶ。また看護援助において、安全で安楽な技術を提供するために知識・技術・態度を習得することを目的としている。さらに、看護実践は科学的根拠いわゆる研究成果に基づいた成果が求められる。そこで、看護・理論・研究が一連の繋がりを学ぶために「看護と研究」を設定した。

地域・在宅看護論では、地域で生活する人々とその家族の健康と暮らしを理解し、支える能力を強化し、地域包括ケアシステム等を推進するために地域で療養する人々だけではなく、生活する人々とその家族を看護の対象とするとともに、療養の場の拡大を踏まえ、地域における多様な場での看護実践をめざす科目を設定した。

領域横断科目は、縦断的かつ横断的に看護を捉え、健康・健康障害と回復過程・終末期などの健康レベルを踏まえ、多角的に看護を実践できるように健康状態別看護の実践力をつけることをねらいとし、教育内容の重複や教育内容の共通部分を見だし、それを新たな科目の中で強化することに

した。健康状態別看護（領域横断）として「健康支援と看護」、「周手術期と看護」、「終末期と看護」、「薬物療法と看護」の4科目を設定した。また、各領域の臨地実習の前段階において、対象をより臨地に近い状況でイメージして看護実践ができるように、シミュレーション学習による臨床判断能力を強化する「臨床判断と看護」の科目を置いた。

成人看護学、老年看護学、小児看護学、母性看護学、精神看護学では、ライフサイクルにおける看護実践を看護の対象と実際に接することで学習を深める。対象の全体像を理解した上で看護計画を立案し、看護実践を行い、行った看護の振り返りができることを目標にした。すなわち看護を行うために「看護過程の展開」ができることを目指している。このことは、実践できる専門職としての看護者を育てるという目標を達成することにもなる。

看護の統合と実践では、チーム医療の中で看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップ、多職種との連携・協働、看護管理、さらに医療安全を学ぶ科目を設定した。さらに、看護技術の総合的な評価や諸外国における保健・医療・福祉の課題、災害時の看護における基礎的知識を学ぶ科目を設定した。

<臨地実習>

臨地実習は、病院や施設・在宅等のさまざまな場における看護の対象に行う。人間尊重を基盤とし、看護の対象を統合された存在としてとらえ、学習した知識・技術・態度を応用し科学的根拠に基づいた看護が実践できる能力を育成する内容とした。また、それぞれの場において、チーム医療における看護職の役割を学習させる内容とした。また、臨床判断を行うための基礎的能力を養うために、専門基礎分野で学んだ内容をもとに看護実践を段階的に学ぶとした。

「基礎看護学実習Ⅰ」は、看護の対象と療養環境を学ぶ学習内容とした。「基礎看護学実習Ⅱ」は、対象との援助関係の形成ができ、基礎看護技術を患者に適用し、対象との関わりから看護を振り返る学習内容とした。「基礎看護学実習Ⅲ」は、看護の対象及び対象の抱える健康課題を理解し、援助的関係の形成を行う。また、基礎看護技術を患者に適用するにあたり、看護過程の基本を学ぶ内容とした。

成人看護学は、成人・老年看護学実習Ⅰ(慢性期・終末期)、成人・老年看護学実習Ⅱ(周手術期)の2段階で学ぶ内容とした。

成人・老年看護学実習Ⅲは、慢性・回復期から自立に向けた成人または高齢者の看護を学ぶ内容とした。

小児看護学実習は、健康な小児の看護を学ぶ保育園実習とさまざまな健康の状態にある小児の看護を病院実習で学ぶ内容とした。

母性看護学実習は、妊産婦・褥婦、新生児・未熟児の看護を病院実習で学ぶ内容とした。

精神看護学実習は、心の健康状態への看護を病院実習で学ぶ内容とした。地域・在宅看護実習は、地域での人々の健康と暮らしを支える看護を学ぶ内容とした。

地域・在宅看護論実習は、地域で暮らす人々の理解と地域でどのように健康を保持しているかを学ぶ内容の地域・在宅看護論実習Ⅰを1年次早期に配置した。地域のあらゆる場で暮らす療養者の看護を地域・在宅看護論実習Ⅱ、地域での暮らしを支える看護を地域・在宅看護論実習Ⅲとした。

各看護学(論)の目標・目的

基礎看護学

《教育目的》

看護の主要概念を学び、看護専門職としての機能や位置づけを理解し、各看護学に共通する看護の基礎となる知識・技術・態度を習得する。

《教育目標》

1. 看護の基本概念や理念を学び歴史的に変化してきた過程を理解する
2. 看護の対象である人間を生命尊重の視点で深く学び総合的に理解する
3. 看護の機能と役割を学び看護活動の概要を理解する
4. 多職種との協働、調整能力に必要なマネジメントの基本を理解する
5. 看護実践の基礎となる看護技術を科学的根拠に基づき安全に提供できる基礎的能力を身につける
6. 健康障害をもつ対象及び家族の特徴を理解し、基本的看護について学ぶ
7. 事例研究を行い、看護研究を行う基本的態度（客観的・科学的・倫理的）を養う。

地域・在宅看護論

《教育目的》

地域で生活している療養者とその家族の生活スタイルや価値観を理解し、生活の自立に向けてセルフケア能力を高めるための支援及び生活の質（QOL）の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。さらに、対象が望ましい生活をするための社会資源の活用、調整の必要性を理解すると共に、保健・医療・福祉サービスにおける看護の役割を理解する。

《教育目標》

1. 地域・在宅看護の概念と変遷を学び、在宅看護の必要性を理解する。
2. 地域・在宅看護の対象を理解し、看護の役割・機能を学ぶ。
3. 療養者とその家族の生活の自立に向けて必要な基礎的能力を身につける。
4. 保健・医療・福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、支援できる基礎的能力を身につける。
5. 日常から社会に目を向け、生活者としての視点で人々を理解する。

健康状態別看護（領域横断）

《教育目的》

対象の健康状態やその変化に応じた看護の実践およびその実践に必要な臨床判断の基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. ライフステージ各期における健康上の課題および学習支援の特徴を学び、個人・集団への健康学習支援能力を習得する。
2. 薬物動態をふまえて各発達段階の対象特性に応じた薬物療法の看護の実際を展開できる。
3. 周手術期における生体反応および発達段階による身体的・精神的・社会的な影響を踏まえた周術期の看護の実際を展開できる。
4. 死を迎えつつある人に必要な症状のコントロールや家族のケアおよび多様な場における終末期の看護について理解できる。
5. 成人・老年・小児・母性・精神看護学の特徴ある事例をもとに、臨床判断に基づいた看護実践ができる。

成人看護学

《教育目的》

社会の中で生活している人間を総合的に捉え、成人期にある対象を理解する。また、個々の生活様式や価値観をとらえたうえで、あらゆる健康レベル及びライフステージに応じた看護を実践できる基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. 成人期における看護の概念を理解し、成人における倫理・看護の役割と機能を理解する
2. 成人期にある対象を身体的・精神的・社会的・霊的側面を統合的に理解できる
3. 成人期にある対象の多様な健康問題を理解する
4. 成人期にあらゆる健康レベルにある対象とその家族への援助を実践できる基礎的能力を身につける
5. 多職種との連携・調整の方法を理解する

老年看護学

《教育目標》

老年期にある対象の特徴を理解し、高齢者の生活と健康問題を統合しながら老人保健の動向、健康の保持増進、疾病の予防、高齢者の取り巻く家族や支援システムについて学ぶ。また、加齢が健康に及ぼす影響について理解し、回復レベルに応じた看護を学ぶ。

《教育目標》

1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を理解する
2. 高齢者の健康障害が、日常生活動作に及ぼす影響について理解し、高齢者の健康を支える基本的技術を理解する
3. 疾患をもつ高齢者とその家族を含めたアセスメントの視点およびその看護について学ぶ
4. 高齢者に対するリハビリテーション看護の意義や目的を理解する
5. 保健医療福祉の動向について学び、チームの一員として他職種との連携・協働のあり方を学ぶ
6. 老年期にある高齢者を理解し、自己の看護観を養う

小児看護学

《教育目標》

子どもの成長発達を理解し、社会の変化が子どもにどのように影響しているかを考え小児看護の基礎的能力を養う。

《教育目的》

1. 子ども観の変遷から子どもの人権について考え子どもの健康と看護を理解する
2. 子どもを取り巻く社会の現状と課題について理解する
3. 子どもの成長発達段階を理解する
4. 子どもと家族を小児看護の対象として捉え、看護実践できる知識技術態度を身につける
5. 子どもの健康保持増進へのニーズを把握し、資源活用と支援できる基礎的能力を身につける

母性看護学

《教育目標》

女性を取り巻く社会の変化及び母性看護の変遷を学び、女性が健全なライフスタイルを送るための看護が実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目的》

1. 性と生殖に関する健康と看護について学び、生命倫理について考える
2. 女性を取り巻く社会の現状と課題について学び、母性看護の意義について理解する
3. 母性看護の対象となる人々が健康生活を営むための看護実践に必要な基礎的能力を身につける
4. 母子保健医療福祉チームの一員として人々のニーズを把握し、社会資源活用の支援ができる基礎的能力を身につける
5. 自己の健全な母性・父性形成の発達を促す

精神看護学

《教育目的》

精神看護の対象となるあらゆる人々を理解し、精神の健康の保持・増進、精神の健康障害を持つ対象と家族を含めた健康回復への支援および人間関係形成の基礎的能力を養う。

《教育目標》

1. 精神看護の意義と心について理解し、精神の健康の保持・増進に必要な知識を理解する
2. 社会の変化に伴う精神の健康に関心を持ち、精神看護の理解を深めることができる
3. 精神障害者の置かれてきた歴史的、社会的背景を理解し、精神障害者をひとりの人間として人権を尊重することができる
4. 精神保健医療福祉の法律や制度の動向に目を向け、資源の活用方法を理解する
5. 治療的コミュニケーションを理解し、自己理解・他者理解に努めることができる
6. 精神障害をもつ人とその家族を理解し、精神保健医療福祉の視点から支援を考えることの必要性を理解する

看護の統合と実践

《教育目的》

対象の理解を深め、看護の知識・技術・態度を統合し実践できる基礎的能力を習得する。

《教育目標》

1. 看護管理の意義と役割について理解する
2. 多職種と協働しメンバーシップ・リーダーシップの意義・役割について理解する
3. 医療安全・事件事例分析・シミュレーションを通して、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う
4. 災害看護の概要及び、災害医療における看護の役割、災害救護活動の実際を学ぶ
5. 国際的な医療・看護活動の実際について理解する
6. 看護の知識・技術・態度を統合し、基礎的看護実践能力の習得をする

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
論理的思考法		非常勤講師		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 論理的思考法を学ぶとともに、その表現方法を養う。					
【目標】 1. 論理的・批判的に思考する方法について理解できる。 2. 課題や問題に対して、客観的な情報を元に論理的・批判的に考察することの重要性を理解できる。 3. 論理的・批判的に考えたことを表現でき、看護実践において必要な思考を学ぶ。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 看護におけるクリティカルシンキング 看護における批判的思考の枠組み			講義	
3-10	2. クリティカルシンキングを身につける 1) 求められる「考える力」 2) 議論の明確化 3) 隠された前提 4) 根拠の確かさ 5) クリシンを實踐で生かそう			講義・演習	
10-15	3. ロジカルライティングを身につける 1) ロジカルライティングとは 2) ロジカルライティングの全体像 3) ロジカルチャートを使った思考法 ・主張・意見を考える ・根拠をたくさん出す ・整理する ・文章にする			講義・演習	
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
1. 楠見孝、子安増生、道田泰司:「型」で身につける土台 クリティカルシンキング・ロジカルライティング・ベネッセi-キャリア、2017. 2. 楠見孝:看護におけるクリティカルシンキング教育、医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
情報科学		非常勤講師		大学教授	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	20時間／1単位／10回			講義・発表	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 情報収集・分析、処理の基礎的知識と技術を学び、その活用方法と応用する能力を養う。</p> <p>【目標】 1. 情報の収集・分析、処理する方法を理解する。 2. 情報処理の基礎的知識と手法を理解し、看護研究等に活用できる。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	1. 情報科学の基礎 1) 情報とは 2) 情報科学とは 3) コンピューターの基本操作 (Word, Excel, PowerPoint) 4) 基本統計			講義	
5-6	2. 情報処理 1) 既存の情報の収集方法 ・文献検索 ・インターネット上で役立つ情報 ・データ検索と利用 2) 看護研究における情報検索の方法			演習	
7-10	3. 情報の発表とコミュニケーション 1) 口頭発表とポスター発表 2) インタネットにおける発表とコミュニケーション 3) プレゼンテーション技術				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 別巻 看護情報学, 医学書院				・プレゼンテーション ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
情報リテラシー		非常勤講師		大学教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義・発表	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 情報化社会において適切に情報を処理し、活用する基本的な能力を修得する。</p> <p>【目標】 1.情報と情報技術を適切に活用するための知識と技術を理解する。 2.問題解決、探求における情報活用の方法を理解する。 3.情報モラル、情報セキュリティなどについて理解する。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 情報化社会とインターネット 1)情報化社会とは (1)インターネットとは (2)情報通信技術(ICT) (3)情報通信技術(ICT)の活用 (4)情報化の社会の変化 2)情報化社会で求められること			講義	
2	2. コンピュータリテラシーとセキュリティー 1)パソコンに関する基礎知識 2)インターネットに関する基礎知識 3)インターネット使用時の注意点とマナー 4)インターネット利用におけるリスクと自衛 3. インターネットによるコミュニケーション 1)同期型メディア、非同期型メディア、チャット、インスタグラム、メール、掲示板 2)フォルダーやファイルの管理 3)e-ラーニング、プリンターの利用、無線LANの利用			講義	
3	4. 情報倫理と医療倫理 1)情報倫理 (1)知的財産権 (2)プライバシー権 (3)医療における情報倫理と守秘義務 2)医療倫理			講義	
4	5. 医療における情報システムの活用 1)医療における情報の記録 病院情報システムと記録の仕方			講義	
5	6. 看護における情報システムの活用 1)遠隔看護(テレナーシング) 2)テレナーシングの実際			講義	
6-7	7. ICT活用の実際 1)プレゼンテーション作成と発表			講義・演習	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
系統看護学講座 看護情報学 医学書院 エssenシャル看護情報学 医学薬出版株式会社				・筆記試験 ・プレゼンテーション作成と発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
教育学		非常勤講師		有無	有
				講義の種類	
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／後期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人間の成長発達における教育の重要性を学び、教育の基礎的知識を養う。					
【目標】 1. 人間の成長発達における教育の意義について理解できる。 2. 看護実践における教育方法の基礎的知識が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 社会のなかの教育と看護 1) 社会・文化・人間形成 2) 機能化された社会における教育と看護			講義	
3-5	2. 教育とはなにか 1) 教育の概念 3. 教育の対象 1) 子ども観と発達 4. 社会変動と教育 1) 大衆社会 2) 大衆消費社会と情報化社会 3) 少子化動向			講義	
6-7	5. 教育の組織化 1) 学校 6. 教育をなりたいさせるもの 1) 教授 2) 訓育 3) 養護 4) 発達			講義	
8-9	7. 学びの場 1) 家庭と学校			講義	
10-12	8. 教育の目標と評価 1) 評価と目標 2) 現在の目標・評価論 3) パフォーマンス評価 4) 評価の開発			講義	
13-14	9. 現代教育の課題 1) キャリア教育 2) ジェンダーとセクシュアリティ 3) 特別ニーズ教育 4) 生涯学習			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
系統看護学講座 基礎分野 教育学 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
コミュニケーション論		非常勤講師		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人間関係を成立する上で必要なコミュニケーションの概念を理解した上で、お互いの考えを認知、共感、理解し、有効なコミュニケーション能力を養う。					
【目標】 1. コミュニケーションを構成する「話す・聞く」「読む」「書く」能力を身につける。 2. 基本的なコミュニケーションの意義を理解し、情報を正確に把握・分析して表現できる。 3. 他者を尊重した適切なコミュニケーションとは何かを理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 話す・聞く 情報をわかりやすくまとめる 1) 家族や友達の中での自己を考える 医療専門職として働く人へインタビュー 2) 話し合い			講義	
2	2. 読む 自分の考えをその根拠を表現する 1) クリティカルリーディングを学ぶ 2) レポート提出			講義	
3-4	3. 書く 多様な情報を正しくまとめる 1) 視野を広げつつ自分を見つめる ①世界の動きを考える ②自己の生き方を考える ③生・生命を考える 2) レポートの書き方 3) レポート作成、視点の指導、発表 4) 各自レポートで提出			講義	
5	4. コミュニケーション コミュニケーションの基礎① 対人関係を支える自己理解: 自分を語る			講義	
6	コミュニケーションの基礎② 心を捉えるコミュニケーションの本質			講義	
7	コミュニケーションの基礎③ コミュニケーション機能の可能性と限界 「顔で笑って心で泣く」とは			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・授業内課題の提出 ・最終レポート課題 ・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生命と倫理学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 生命の尊厳、人間尊重について理解し、医療・看護の基盤となる倫理観を学ぶ。					
【目標】 1. 生命の尊厳について理解できる。 2. 人間尊重について考えを深めることができる。 3. 医療従事者として基盤となる自己の生命観・倫理観を培う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス、道徳理論			講義	
2	帰結主義、道徳倫理			講義	
3	功利主義について			GW・発表	
4	カントの自由論対ベンサム			講義	
5	カント道徳論			講義	
6	安楽死、自殺、旧優生保護法			講義	
7	優性保護法、DVD			講義	
8	優性保護法(松本清張賞)			講義	
9	遺伝子工学①			討論	
10	遺伝子工学②			GW	
11	IPS細胞、再生医療(山中教授)			講義	
12	バイオテクノロジーの何が問題か			講義	
13	医療課題①(アメリカ)			講義	
14	医療課題②(アメリカ)			討論	
15	まとめ				
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・加藤尚武/加茂直樹:生命倫理学を学ぶ人のために,世界思想社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
文化人類学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 世界の文化を幅広く見つめ、人間生活や身近な地域社会に関心を持つことができる。					
【目標】 1. 世界の文化を学び、人間生活を理解する。 2. 地域の文化について理解を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 人間と文化 1) 人と人とのつながり (1) 生殖 ① 民族生殖理論 ② 生殖と親子関係 ③ 生殖医療 (2) 婚姻 ① 性をめぐる関係 ② 婚姻と社会関係 ③ 婚姻によるつながり (3) 家族 ① 家族とは何か: 核家族は普遍的か? 母-子関係 ② 養育と養老: 子育てと家族、親の養老 ③ 日本の家族: 「家」、核家族化と隠居制家族 (4) ネットワーク ① 親族: 親族の組織化、親族関係のバランス、女性親族の力 ② 「縁」: ボランティア-アソシエーション 華人・華僑のネットワーク、集団を超えて 2) 環境・技術・モノ (1) 適応と選択 (2) 環境と機能主義人類学 (3) 野生の思考 (4) 意味・行為・モノ			講義	
3-4	2. 世界の文化 1) 信仰と世界観 2) 文化と身体・病気・治療			講義	
5-7	3. 日本の文化 1) 日本の地理・歴史・文化の概論 2) 沖縄の文化 (1) 島嶼県としての沖縄 (2) 沖縄と信仰 (3) これからの沖縄			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・講師にて作成したテキスト				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生活環境論		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 地球環境における生態系の在りようを理解した上で、健康の基盤となる生活環境を学ぶ。					
【目標】 1. 生態系と生活環境の関連が理解できる。 2. 食・衣・住生活の場面から環境を考える。 3. 生活環境が人間の生活に及ぼす影響について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 人間と環境 1) 環境とは 2) 生物と環境 3) 人間活動と環境 4) われわれを取り巻く環境問題			講義	
2-5	2. 食・衣・住生活と環境 1) 食生活と環境 2) 衣生活と環境 3) 住生活と環境			講義	
6	3. 日本における環境問題 1) 大気汚染 2) 水質汚染 3) 廃棄物 4) 騒音・振動			講義	
7	4. 地球規模の環境問題 1) オゾン層の破壊 2) 地球の温暖化 3) 人口増加と食料問題 4) エネルギー資源と環境問題			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
藤城 敏幸: 生活と環境, 東京教数社, 2017. 江口文陽, 他: 生活環境論, 地人書館, 2003.					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会学		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 社会学における基本的な概念を学び、人間社会について理解を深める。					
【目標】 1. 社会の概念を理解する。 2. 社会的存在として生活を営む人間を理解する。 3. 社会と看護の関連について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	1. 人間と社会 1) 近代社会 2) 社会学の基礎概念			講義	
4-7	2. コミュニティ 1) 都市を問いなおす 2) 地域・国家・グローバル			講義	
	3. 会社・職業 1) 「公-共-私」をめぐる構造変化 2) 地域・国家・グローバル			講義	
	4. 家族 1) ケアを問いなおす 2) 「家族」とは 3) 「家族」とケアの外部化			講義	
8-10	5. 現代社会と現代文化 1) ポスト産業化社会			講義	
11-12	6. 社会問題と政策的対応 1) 社会問題 2) 家族問題			講義	
13-15	7. 地域を社会学する 1) 沖縄の社会構造 2) 沖縄の家族			講義	
使用テキスト				評価方法	
・国民衛生の動向 厚生統計協会				・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
心理学		非常勤講師		臨床心理士	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 心理学の基礎的知識を学び、自己と他者を理解することで人間理解につなげる。					
【目標】 1. 心理学の概念を理解できる。 2. 人間の心理的発達を理解できる。 3. 人間の心理や行動を客観的に分析する能力を高め、自己と社会への理解を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	動機づけ、知覚			講義	
3	知覚、記憶			講義	
4	記憶、スキーマ			講義	
5	思考、アルゴリズムとヒューリスティック			講義	
6	ヒューマンエラー			講義	
7	認知、自己認知、ヒューマンスキル			講義	
8	学習、古典的条件付け、オペラント条件付け			講義	
9	パーソナリティ、深層心理			講義	
10	コンプレックス、自我状態			講義	
11	自我状態、コミュニケーション			講義	
12	発達、ピアジェ、フロイト			講義	
13	発達、エリクソン			講義	
14	自我同一性			講義	
15	まとめ			講義	
使用テキスト				評価方法	
・ダイアグラム,心理学, 北大路書房				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
人間関係論		非常勤講師		大学教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 関係的存在としての人間の特徴を理解し、人間関係のあり方を学ぶ。					
【目標】 1. 関係的存在としての人間を理解できる。 2. 看護の基礎となる人間関係について理解できる。 3. より良い人間関係を築くための方法について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	ホーソン実験			講義	
3	行動の獲得、社会的役割			講義	
4	社会的役割、役割葛藤①			講義	
5	社会的役割、役割葛藤②			講義	
6	援助のためのガイドライン			講義	
7	対人認知①			講義	
8	対人認知②			講義	
9	ステレオタイプ、対人関係認知			講義	
10	対人魅力			講義	
11	対人コミュニケーション			講義	
12	Nonviolent Communication			講義	
13	説得			講義	
14	集団決定、集団コミュニケーション			講義	
15	患者を支える人間関係			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：別巻14人間関係論，医学書院				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
臨床英語		非常勤講師		看護師(外国人外来担当)	
				有無	有
年次/開講時期	時間数/単位数/講義回数			講義の種類	
2年次/前期	45時間/2単位/23回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護実践の場で活かせる看護に必要な英語を学ぶ。					
【目標】 1. 医療の場で用いる医学、看護に必要な英語の基礎が理解できる。 2. 看護場面を想定した英語によるコミュニケーション能力を高める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-10	1. 医学、看護に必要な英語 1) 人体各部の名称 2) 診断用語 3) 診療科名 4) 患者基本情報 (シミュレーション・ロールプレイ)			講義・演習	
11	筆記試験(1回)				
12-22	2. 看護場面での英会話 1) 困ったときの英語/診療科名/患者の基本情報 2) 診療手続き/症状 3) 入院時オリエンテーション 4) 病歴の聴取/病名 5) 検査 6) 各科での対応 7) 手術 8) 術後/日常看護 9) こころのケア/文化や宗教の違い (シミュレーション・ロールプレイ)			講義・演習	
23	まとめ・筆記試験(2回)				
使用テキスト				評価方法	
・クリスティーンのレベルアップ看護英会話, 医学書院				・筆記試験(2回) ・ヒアリング ・英会話 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
リラクゼーション		非常勤講師		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義・演習・実技	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 ストレスの基礎的知識や対処方法を学び、リラクゼーションをセルフケアと看護につなげる。</p> <p>【目標】 1. ストレスの概念を理解する。 2. リラクゼーションの理論と実際を理解できる。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. リラクゼーション序論 ストレスとリラクゼーション ・ハンス・セリエのストレス学説について ・ストレスとなる刺激の種類について			講義	
2	2. 呼吸とリラクゼーション 呼吸とリラクゼーション① ・人間の呼吸形態の特異性について ・なぜ呼吸を重視するのか ・リラクゼーションをもたらす身体訓練 呼吸法 筋弛緩法 自律訓練法 ヨガ・気功等			講義 実技	
3	3. 視覚・聴覚とリラクゼーション 視るもの・聴くものが作り出すリラクゼーション・絵画・音楽				
4	4. 味覚・嗅覚とリラクゼーション 食物や飲み物、香りがもたらすリラクゼーション・アロマセラピーに用いる精油について・自分に合ったアロマを作ってみる			講義	
5-6	5. 触覚とリラクゼーション 触れるケアがもたらすリラクゼーション ・皮膚に関する科学的知見とリラクゼーションの関連性 ・タッチケア			講義 演習	
7	6. 指圧とリラクゼーション 指圧によるリラクゼーション 指圧と効果			講義・実技	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・五十嵐透子:リラクゼーション法の理論と実際-ヘルスケア・ワーカーのための行動療法入門-(第2版)、医歯薬出版				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学 I		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人体の形態と構造及びその機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する。					
【目標】 1.人体の構造と機能を学ぶ必要性を説明できる。 2.人体がどのような構造で、それぞれの部位にどのような器官が位置しているのか記述できる。 3.人体がどのような素材によって形づくられ、それらがどのような働きをしているのか記述できる。 4.生命維持システムとそれを営む器官、生命の活用を営む器官、人体を保護して種を保存する機能を営む器官について記述できる。 5.人体の生命維持の基盤となる呼吸器系、血液・循環器系の構造と機能について記述できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	1. 解剖学生理学の基礎知識 1)看護と「人体の構造と機能」 2)形からみた人体 3)素材からみた人体(細胞・組織) 4)機能からみた人体、ホメオスタシス			講義	
5-9	2. 呼吸 1)呼吸器の構造 2)呼吸とは			講義	
10-14	3. 血液・循環 1)血液の組成と機能 2)循環器系の構成 3)心臓の構造と機能 4)抹消循環系の構造 5)血液循環の調節 6)リンパとリンパ管			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・筆記試験 ・小テスト	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅱ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標 【目的】 人体の各器官系統の機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する 【目標】 1.人体の生命維持の基盤となる消化器系・代謝、泌尿器系・体液、自律神経系・内分泌系の構造と機能について記述できる					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-5	1. 栄養の消化と九州 1) 口・咽頭・食堂の構造と機能 2) 腹部消化管の構造と機能 3) 膵臓・肝臓・胆嚢の構造と機能 4) 腹膜			講義	
6-9	2. 体液の調節と尿の生成 1) 腎臓の構造と機能 2) 排尿路 3) 体液の調節			講義	
10-14	3. 内臓機能の調節 1) 自律神経系による調節 2) 内分泌系による調節 3) 内分泌系と内分泌細胞 4) ホルモン分泌と調節の実際			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・筆記試験 ・小テスト ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅲ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 人体の各器官系統の機能を学び、看護に必要な基礎的知識を習得する					
【目標】 1.生命を活用する機能としての骨格系・筋系、神経系・感覚器系の構造と機能について記述できる 2.人体を保護し、種を保存する機能としての皮膚・免疫系、生殖器系の構造と機能について記述できる					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	1. 身体の支持と運動 1) 骨格とは 2) 骨の連結と骨格筋 3) 骨格と筋 (1)体幹 (2)上肢と下肢 (3)頭頸部 4) 筋の収縮			講義	
5-9	2. 情報の受容と処理 1) 神経系の構造と機能 2) 脊髄と脳、脊髄神経と脳神経 3) 脳の高次機能 4) 運動機能と下行伝導路 5) 感覚機能と上行伝導路 6) 痛み(疼痛) 7) 眼の構造と視覚 8) 耳の構造と聴覚・平衡覚 9) 味覚と嗅覚			講義	
10-12	3. 身体機能の防御と適応 1) 皮膚の構造と機能 2) 生体の防御機構 3) 体温とその調節			講義	
13-14	4. 生殖 1) 男性生殖器 2) 女性生殖器 3) 受精と胎児の発生			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・筆記試験 ・小テスト	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
形態機能学Ⅳ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 これまで既習した人体の構造を想起し、生きていることや日常生活行動にどう影響するのかを考え、看護に繋げていく					
【目標】 1.これまでに既習した人体の構造と機能を想起し、人間はどのような人体の構造と機能を使って生きているのか、日常生活行動を営んでいるのか説明できる 2.病気や障害等で人体の構造と機能が障害された場合、それが生きていることや日常生活行動に導影響するのか考え、看護に繋げていくことを説明できる					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 日常生活行動からみるからだ 1) 日常生活とからだ			講義	
3-11	2) 日常生活行動からみるからだ (1) 息をする (2) 動く (3) 食べる (4) トイレに行く (5) お風呂に入る (6) 話す・聞く (7) 眠る (8) 子どもを生む (9) 身を守る			演習	
12-15	3) 身体の構造と機能が障害された場合の日常生活行動への影響 4) 発表・まとめ			演習	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：解剖生理学 人体の構造と機能①, 医学書院				・演習レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
生化学		非常勤講師		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 生体を構成する物質とその代謝作用を学び、人間の生命現象を科学的に判断する能力を養う。					
【目標】 1. 人体を構築している臓器、細胞の中で起こっている物質の代謝を理解する。 2. 生体の物質代謝を学び、疾病の成り立ちや回復を科学的に解釈できる基礎能力を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	代謝総論			講義	
2	栄養素の構造と性質①(糖質)			講義	
3	栄養素の構造と性質②(糖質)			講義	
4	栄養素の構造と性質③(脂質)			講義	
5	栄養素の構造と性質④(アミノ酸とタンパク質)			講義	
6	タンパク質の構造			講義	
7	核酸、ビタミン①			講義	
8	ビタミン②、酵素			講義	
9	糖質代謝①			講義	
10	糖質代謝②、脂質代謝①			講義	
11	脂質代謝②			講義	
12	脂質代謝③、タンパク質の代謝①			講義	
13	タンパク質の代謝②			講義	
14	遺伝情報①			講義	
15	遺伝情報②			講義	
30					
使用テキスト				評価方法	
・臨床生化学, メディカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
栄養と健康		非常勤講師		管理栄養士	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		20時間／1単位／10回		講義	
講義の目的と目標 【目的】 人間の健康生活を支える食事について考え、生体に取り込まれた栄養素の働きを理解する。					
【目標】 1. 人間にとっての栄養の意義を理解する。 2. 人体における栄養素の働きを理解できる。 3. 食事療法における健康障害の改善方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 人間栄養学と看護 1) 栄養を学ぶには 2) 保健・医療における栄養学 3) 看護と栄養			講義	
2-3	2. 栄養素の種類とはたらき 1) 糖質 2) 脂質 3) タンパク質 4) ビタミン 5) ミネラル、食物繊維、水 3. 栄養状態の評価・判定 1) 栄養アセスメントの意義 2) 栄養アセスメントの方法			講義	
4-5	4. ライフステージと栄養 1) 乳幼児・幼児期における栄養 2) 学童・思春期・青年期における栄養 3) 成人期における栄養 4) 妊娠・授乳期における栄養 5) 更年期における栄養 6) 高齢期における栄養			講義	
6-9	5. 臨床栄養 1) 病院食の意義と種類 一般食と特別職 栄養補給法 2) 疾患・症状別食事療法 (1) 肥満・メタボリックシンドローム患者の食事療法 (2) 循環器疾患患者の食事療法 高血圧症、動脈硬化 虚血性心疾患 (3) 消化器疾患患者の食事療法 胃腸疾患 肝臓・胆のう・膵臓疾患 (4) 栄養・代謝疾患患者の食事療法 糖尿病、脂質異常症 高尿酸血症 (5) 腎疾患患者の食事療法 急性糸球体腎炎、慢性腎臓病			講義	
10	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-人体の構造と機能[3]-栄養学, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
微生物学		非常勤講師		大学准教授	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 微生物が生体に及ぼす影響を理解し、病原微生物の種類と特徴から生体への影響を予防する方法を学ぶ。					
【目標】 1. 感染と発病の概念の違い、感染症の予防と治療について理解する。 2. 病原体と疾患の関係が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	微生物、医動物とは			講義	
2	呼吸器感染症			講義	
3	結核			講義	
4	皮膚に発疹が出現するウイルス感染症とリケッチア			講義	
5	消化器系感染症			講義	
6	肝炎			講義	
7	感染症の検査・治療、尿路感染症			講義	
8	実験結果コロニー観察、グラム染色			講義	
9	性感染症			講義	
10	皮膚粘膜の感染症、皮膚に発疹ウイルス			講義	
11	脳神経系感染症、人獣共通感染症、寄生虫感染症			講義	
12	小児の感染症、母子感染症			講義	
13	高齢者の感染症			講義	
14	日和見感染症、移植患者と感染症、手術創外傷			講義	
15	血管内カテーテル関連血流感染症、薬物耐性			講義	
使用テキスト				評価方法	
・ナーシング・グラフィカ:臨床微生物・医動物,メディアカ出版				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病理学		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		15時間／1単位／8回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害に関する病因と病変について学ぶ。					
【目標】 1. 人間の病気の原因とその成り立ちを理解する。 2. 病変の分類について学び、形態的・機能的変化について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	概論①			講義	
2	概論②			講義	
3	先天異常			講義	
4	代謝障害			講義	
5	循環障害			講義	
6	炎症			講義	
7	腫瘍			講義	
8	総括			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-疾病のなりたちと回復の促進[1]-病理学, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学 I		非常勤講師		医師	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		有無	有
1年次／前期		45時間／2単位／23回		講義の種類	
講義の種類					
講義					
講義の目的と目標					
【目的】					
呼吸器、循環器、血液・造血器、内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】					
1.呼吸器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
2.循環器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
3.血液・造血器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
4.内分泌疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	呼吸器の看護を学ぶにあたって			講義	
2	呼吸器の構造と機能①			講義	
3	呼吸器の構造と機能②			講義	
4	内分泌疾患①(症状、病態生理、検査)			講義	
5	循環器疾患①			講義	
6	内分泌疾患②			講義	
7	症状とその病態生理			講義	
8	内分泌疾患、甲状腺、副甲状腺			講義	
9	検査と治療・処置①			講義	
10	循環器疾患②			講義	
11	内分泌疾患③(副腎、消化器腫瘍、救急)			講義	
12	検査と治療・処置②			講義	
13	循環器疾患③			講義	
14	循環器疾患④			講義	
15	疾患の理解①			講義	
16	循環器疾患⑤			講義	
17	血液・造血器疾患①			講義	
18	循環器疾患⑥			講義	
19	疾患の理解②			講義	
20	血液・造血器疾患②			講義	
21	循環器疾患⑦			講義	
22	血液・造血器疾患③			講義	
23	循環器疾患⑧			講義	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[2]-呼吸器, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[3]-循環器, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[4]-血液・造血器, 医学書院 ・系統看護学講座:専門Ⅱ-成人看護学[6]-内分泌・代謝, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅱ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 歯・口腔器、消化器、代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 歯・口腔器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 消化器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 代謝疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	消化器の構造と機能			講義	
2	検査			講義	
3	消化器の治療と処置			講義	
4	疾患の理解①(上部消化管)			講義	
5	疾患の理解②(下部消化管)			講義	
6	疾患の理解③(糖尿病)			講義	
7	代謝疾患の総論①			講義	
8	代謝疾患の総論②			講義	
9	疾患の理解④(高脂血症)			講義	
10	肝機能検査			講義	
11	肝臓の疾患			講義	
12	歯・口腔疾患①			講義	
13	胆のう疾患			講義	
14	膵臓疾患			講義	
15	歯・口腔疾患②			講義	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[15]-歯・口腔, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[5]-消化器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[6]-内分泌・代謝, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・レポート 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅲ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 皮膚、アレルギー・膠原病・感染症、眼、耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 皮膚疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. アレルギー・膠原病・感染症、眼、耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 眼疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4. 耳鼻咽喉疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	アレルギー膠原病①			講義	
2	アレルギー膠原病②			講義	
3	アレルギー膠原病③			講義	
4	アレルギー膠原病④			講義	
5	感染症①			講義	
6	感染症②			講義	
7	眼疾患①			講義	
8	感染症③			講義	
9	感染症④			講義	
10	耳鼻科、解剖と検査方法			講義	
11	皮膚総論(アレルギー、検査)			講義	
12	耳鼻科疾患			講義	
13	眼疾患②			講義	
14	皮膚各論(湿疹～悪性腫瘍)			講義	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[12]-皮膚，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[11]-アレルギー・膠原病・感染症，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[13]-眼，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[14]-耳鼻咽喉，医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅳ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 脳・神経、運動器、精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 脳・神経疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 運動器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 精神疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	症状と病態生理、検査と治療			講義	
2	疾患の理解、外傷性の運動器疾患について			講義	
3	内因性運動疾患について			講義	
4	脳神経機能と構造			講義	
5	脳神経症状と病態生理			講義	
6	疾患の理解①			講義	
7	疾患の理解②			講義	
8	疾患の理解③F→K			講義	
9	病態生理(リハビリテーション)			講義	
10	疾患の理解④			講義	
11	疾患の理解⑤			講義	
12	精神疾患①(統合失調症、薬物療法)			講義	
13	精神疾患②(うつ病、メンタルヘルス、精神療法)			講義	
14	精神疾患③(知的発達障害、心理調査、認知症)			講義	
15	精神疾患④(精神科リハビリ、地域精神医療)			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[7]-脳・神経, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-成人看護学[10]-運動器, 医学書院 ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-精神看護の基礎-精神看護学①, 医学書院				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
病態生理学Ⅴ		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 腎・泌尿器、女性生殖器、小児期、周産期疾患の病態生理、診断、検査、治療について学ぶ。					
【目標】 1. 腎・泌尿器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 2. 生殖器疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 3. 小児期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。 4. 周産期疾患の病態生理、診断、検査、治療について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	染色体異常、新生児、感染症			講義	
2	内分泌、呼吸機器			講義	
3	麻酔、代謝、消化器			講義	
4	心に残る医療、循環器			講義	
5	血液、悪性新生物			講義	
6	症状と病態生理(腎臓・泌尿器疾患)			講義	
7	乳腺疾患			講義	
8	泌尿生殖器			講義	
9	検査と治療・処置			講義	
10	泌尿器疾患の理解①			講義	
11	泌尿器疾患の理解②			講義	
12	糖尿病疾患の理解			講義	
13	泌尿器疾患の理解③			講義	
14	泌尿器疾患の理解④			講義	
15	腎不全疾患の理解			講義	
16	女性生殖器疾患の理解①			講義	
17	女性生殖器疾患の理解②			講義	
18	女性生殖器疾患の理解③			講義	
19	妊娠分娩の異常			講義	
20	不妊症			講義	
21	分娩の異常①			講義	
22	分娩の異常②			講義	
23	新生児産褥の異常			講義	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[8]-腎・泌尿器，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-成人看護学[9]-女性生殖器，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-母性看護学[2]-母性看護学各論，医学書院 ・系統看護学講座：専門Ⅱ-小児看護学[2]-小児臨床看護学各論，医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
薬理学		非常勤講師		薬剤師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 薬物が生体に及ぼす作用・副作用を理解し、薬物の取扱いと管理方法を学ぶ。					
【目標】 1. 薬物の生体への作用機序について学び、有効性と安全性について理解する。 2. 薬物の取り扱い、安全管理について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	薬理学総論			講義	
2	薬に関する基礎知識			講義	
3	生体機能と薬			講義	
4	抗炎症薬①			講義	
5	抗炎症薬②			講義	
6	抗炎症薬③			講義	
7	抗凝固薬			講義	
8	医療用麻薬			講義	
9	消化器系作用薬			講義	
10	免疫①			講義	
11	免疫②			講義	
12	抗アレルギー薬			講義	
13	糖尿病治療薬			講義	
14	漢方薬			講義	
15	抗微生物薬			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：-疾病のなりたちと回復の促進[2]-薬理学, メジカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
公衆衛生学		非常勤講師		大学准教授	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康問題と社会背景を理解し、健康問題に対する統計的な知識を学び、健康に関する諸問題を幅広く捉える能力を養う。					
【目標】 1. 人々の健康を保持増進させるための公衆衛生の目的と方法について理解する。 2. 集団の健康状態を把握しりための疫学や健康指標について理解する。 3. 人々の生活環境の状況を学習し、看護と公衆衛生の連携を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義	
2	公衆衛生のエッセンス			講義	
3	公衆衛生の活動対象			講義	
4	公衆衛生のしくみ			講義	
5	環境と健康			講義	
6	国際保健			講義	
7	疫学			講義	
8	地域保健①(母子保健)			講義	
9	地域保健②(成人保健、高齢者保健)			講義	
10	地域保健③(精神保健、歯科保健)			講義	
11	地域保健④(難病支援、障害支援)			講義	
12	地域保健⑤(感染症対策)			講義	
13	学校と健康			講義	
14	職場と健康			講義	
15	健康危機管理、災害保健			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[2]-公衆衛生, 医学書院				・筆記試験 ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会福祉		非常勤講師		有無	無
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 社会福祉の定義を学び、看護と社会福祉の関連を習得する。					
【目標】 1. 社会福祉の変遷と社会福祉制度の背景を理解する。 2. 社会福祉の法制度と実施組織や社会福祉従事者について理解する。 3. 他国の社会福祉を学び、わが国の社会福祉の特徴を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 社会福祉の基本的性格 1) 社会福祉の意味 2) 社会福祉のとらえていく立場 3) 社会福祉の定義、構造 4) 社会福祉における住民参加と社会福祉運動 5) 社会福祉と看護との関連			講義	
3	2. 生活問題の展開と社会福祉の基本的動向 1) 生活問題の展開 2) 社会福祉の基本的動向			講義	
4	3. 社会福祉制度 1) 社会福祉の法制度の発展と法制度 2) 社会福祉の財源 3) 社会福祉の組織と管理			講義	
5-6	4. 社会福祉の分野とサービス 1) 障害者福祉(障害者自立支援法) 2) ひとり親家庭の福祉 3) 児童福祉 4) 生活保護制度 5) その他の福祉			講義	
7	5. 社会福祉の形成と現状 1) 社会福祉の歴史的特性 2) 社会福祉の展開・発展 ①始原としてのイギリス ②急発展のアメリカ			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[3]-社会福祉, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
社会保障		非常勤講師		社会福祉士	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	45時間／2単位／23回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 社会保障の概念と目的、機能を学び、看護の中で社会保障が果たす役割を習得する。					
【目標】 1. 社会保障の概念や目的・機能について理解する。 2. 社会保障制度の内容について理解する。 3. 事例や演習を通して、連携方法や社会福祉援助技術を理解できる。 4. 福祉サービスにおける関連職種の役割と連携を理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	1. 社会保障制度 1) 社会保障の概念 2) 社会保障制度の目的、機能、体系 ①社会保険 ②公的扶助 ③社会福祉 ④公衆衛生及び医療 ⑤老人保健			講義	
5-8	2. 社会保障制度 1) 医療保障 2) 介護保障 3) 所得保障			講義	
9-11	3. 社会福祉と医療・看護連携をめぐる課題 1) 社会福祉実践の特質 2) 社会福祉実践の基本的枠組み 3) 基底となる要素 4) 社会福祉実践の検討課題 5) 医療・看護連携の重要性 6) 連携をめぐる課題			講義	
12	筆記試験(1回目)				
13-15	4. 社会福祉援助技術 1) 医療ソーシャルワーク業務 2) 直接援助技術 3) 間接援助技術			講義	
16-22	5. 関連職種の連携 1) 社会福祉と医療・看護の連携の実際 ①関連職種の理解 社会福祉士、精神保健福祉士、介護福祉士、臨床心理士、精神保健福祉士 など ②医療サービスから福祉サービスへの移行 ③関連職連携の実践例(演習)			講義・演習	
23	まとめ・筆記試験(2回目)				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[3]-社会福祉, 医学書院				・筆記試験(2回) ・レポート	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・北島政樹：医療福祉をつなぐ関連職種連携, 南江堂					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護関係法令		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 看護活動を行うための基盤となる法令及び関連する法について学ぶ。					
【目標】 1. 看護に必要な関係法令の意義を理解する。 2. 看護専門職としての責任を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 法の概念 1. 法の概念と法の種類 2. 看護法 ①保健師助産師看護師法 ②看護師等の人材確保の促進に関する法律			講義	
2	2. 医事法 1. 医療法 2. 医療関係資格法 3. 保健医療福祉資格法 4. 医療を支える法			講義	
3	3. 保健衛生法 1. 共通保健法 2. 分野別保健法 3. 感染症に関する法 4. 食品に関する法			講義	
4	4. 薬務法・環境衛生法 1. 薬事一般に関する法律 2. 環境衛生法			講義	
5	5. 社会保障法 1. 費用保障 2. 年金 3. 手当			講義	
6	6. 福祉法 1. 福祉の基盤 2. 児童分野 3. 高齢分野 4. 障害分野			講義	
7	7. 労働法と社会基盤整備・環境法 1. 労働法 2. 社会基盤整備 3. 環境法			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：健康支援と社会保障制度[4]-看護関係法令, 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
現代医療論		非常勤講師		医師	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
1年次／前期	15時間／1単位／8回			講義	
講義の目的と目標					
【目的】 医療の変化と健康問題・疾病予防について理解を深め、望ましい医療者・看護師像について学ぶ。また、地域医療活動とその意義について学ぶ。					
【目標】 1. 医療の変化と健康問題、疾病予防の意義について学ぶ。 2. 医療を受ける患者を理解し、医療・看護の職業倫理について学ぶ。 3. 医療制度、医療サービスについて知り、現代医療の問題を理解する。 4. 地域とともにある医療活動について理解でき、将来の医療を担う看護の役割を考えることができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	医学・医療のあゆみ			講義	
2	健康と病気			講義	
3	生活と健康、医学と医療①			講義	
4	医学と医療②			講義	
5	わが国の医療供給体制①			講義	
6	わが国の医療供給体制②			講義	
7	現代医療における諸問題①			講義	
8	現代医療における諸問題②			講義	
使用テキスト				評価方法	
・現代医療論, メヂカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向2015/2016					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 看護の概念を捉え、看護の位置づけ・専門性について学ぶ。また、看護の対象としての人間の捉え方を明らかにし、看護の機能と役割の重要性が認識できる。					
【目標】 1. 看護の概念や理念などが歴史的推移の中でどのように変化してきたかを理解する。 2. 人間の健康や環境が人々の生活や生き方に影響することを理解する。 3. 看護の対象である人間の特徴や生活者としての人間を理解する。 4. 看護活動の概要を理解する。 5. 看護における看護倫理について理解する。 6. 看護の専門性について理解する。 7. 看護の構成要素について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	1. 看護とは 1)自分が考えている「看護とは」 2)看護の本質 3)看護の役割と機能 4)看護の継続性と連携			講義	
4-5	2. 看護の対象の理解 1)人間の「心」と「からだ」を知る 2)生涯発達しつづける存在としての人間 3)人間の「暮らし」の理解 4)看護の対象としての家族・集団・地域			講義	
6-7	3. 国民の健康状態と生活 1)健康のとらえ方 2)国民の健康状態 3)国民のライフサイクル			講義	
8	4. 看護の提供者 1)職業としての看護 2)看護職の資格・養成制度・就業状況 3)看護職者の継続教育とキャリア開発 4)看護職の養成制度の課題			講義	
9-11	5. 看護における倫理 1)現代社会と倫理 2)医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理 3)看護実践における倫理問題への取り組み			講義	
12-14	6. 看護倫理と主要概念 1)看護理論とは 2)看護理論からみる看護 ①フローレンス・ナイチンゲール ②ヴァージニア・ヘンダーソン 3)看護の構成要素の理解 ①人間 ②健康 ③環境 ④看護 4)ケアリング ①ジーン・ワトソン ②パトリシア・ベナー			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護講座 専門分野 I 看護学概論, 医学書院 ・フローレンスナイチンゲール:看護覚え書き 本当の看護とそうでない看護 日本看護協会出版会 ・ヴァージニアヘンダーソン:看護の基本となるもの 日本看護協会出版会				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・小野寺杜記訳:オレム看護論-看護実践における基本概念,第4版,医学書院 ・松本光子監修:ロイ看護論-適応モデル序説,メヂカルフレンド社 他					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論 I		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護を实践するための基礎となる技術の概念について理解し、安全・安楽な看護行為に共通する基本技術を習得する。					
【目標】 1. 看護における技術の概念及び看護技術の基本原則について理解する。 2. 看護におけるコミュニケーションの基礎を理解し活用方法の実際を学ぶ。 3. 看護における観察・記録・報告の目的と重要性について理解できる。 4. 看護におかれう安全を守る技術の意義や方法について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	技術の概論①			講義	事前練習
2	コミュニケーション①(構成要素とプロセス、看護におけるコミュニケーションの定義)			講義	
3	コミュニケーション②(コミュニケーションの基本と効果的なコミュニケーション方法)			講義	
4	技術の概論②			講義	
5	コミュニケーション③(コミュニケーションにおける自己の特徴を知ろう)			講義	
6	安全を守る援助①			講義	
7	コミュニケーション④(コミュニケーション障害のある人の特徴とその対応)			講義	
8	観察、記録、報告①			講義	
9	安全を守る援助②			講義	
10	安全を守る援助③			講義	
11	観察、記録、報告②			講義	
12	安全を守る援助④			講義	
13	安全を守る援助⑤ 演習(手洗い、ガウンテクニック)			演習	
14	安全を守る援助⑥ 演習(手洗い、ガウンテクニック)			演習	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野 I -基礎看護技術 I・II-第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 対象の健康生活を保持するために、環境調整の援助技術、活動と休息への援助、食事の援助などの日常生活援助技術を習得する。</p> <p>【目標】 1. 患者にとっての環境を理解し、環境調整の援助技術を習得する。 2. 患者への活動と休息への援助の意義や基本の方法について理解する。 3. 患者にとっての食事の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	環境調整の援助①			講義	事前練習
2	環境調整の援助②			講義	
3	活動と休息の援助①(活動休息の意義と影響要因)			講義	
4	活動と休息の援助②(ボディメカニズム、体位変換、ポジショニング)			講義	
5	活動と休息の援助③(背抜き、移乗・移動、休息への援助)			講義	
6	バイタルサイン①(バイタルサイン測定の意義・目的～体温測定)			講義	
7	環境調整の援助③ 演習(環境整備、シーツ交換)			演習	
8	環境調整の援助④ 演習(環境整備、シーツ交換)			演習	
9	バイタルサイン②(循環、脈拍、血圧測定)			講義	
10	バイタルサイン③(呼吸、spo2、意識)			講義	
11	活動① 演習(体位変換、車イス移乗・移動)			演習	
12	活動② 演習(体位変換、車イス移乗・移動)			演習	
13	バイタルサイン④ 演習			演習	
14	バイタルサイン⑤ 演習			演習	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所:看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア ・系統看護学講座:専門分野Ⅰ-臨床看護総論-第6版, 医学書院 ・フィジカルアセスメントがみえる 第1版, メディックメディア 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ・演習 	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他:演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他:ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子:看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅲ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 対象の健康生活を保持するために、清潔・衣生活への援助及び、排泄の援助などの日常生活援助技術を習得する。					
【目標】 1. 患者にとっての清潔・衣生活の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける。 2. 患者にとっての排泄の意義を理解し、援助技術の基礎的能力を身につける。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-5 6-8	1. 清潔・衣生活への援助 1) 健康生活における清潔・衣生活の意義 2) 清潔・衣生活に影響する要因とアセスメント 3) 身体の清潔のための援助方法 ・入浴とシャワー浴の介助・清拭・洗髪 ・手浴、足浴・整容 4) 衣生活の援助方法 ・衣服着脱への援助 ・点滴がある患者の寝衣交換			講義 演習	
9-11 12-14	2. 排泄の援助 1) 排泄及び排泄行動の意義と重要性 2) 排泄援助に必要な知識 3) 排泄のアセスメント視点 4) 阻害因子と援助の判断 5) 排泄援助の原則・注意事項 ・排泄援助、尿器・便器の使用法 ・清潔の援助(陰部の保清)			講義 演習	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門分野 I - 基礎看護技術 II - 第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア ・看護学生お役立ちカード, 照林社 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 	
★60点未満は、再試験					
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他: 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他: ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子: 看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅳ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護におけるバイタルサイン測定・フィジカルアセスメント及び身体計測の技術を習得し、臨床判断の基礎的概念を学ぶ。					
【目標】 1. バイタルサインの測定方法を習得し、測定値の意味が分かる。 2. 系統別のフィジカルイグザミネーションが正確に実施でき、正常と異常が理解できる。 3. 臨床判断の基本的概念が分かる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3 4-5	1. バイタルサイン 1) バイタルサインとは 2) バイタルサイン観察の意義 3) バイタルサインの変動因子 4) 根拠に基づいたバイタルサインの観察方法			講義 演習	
6-8 9-11	2. フィジカルアセスメント① 1) 看護におけるフィジカルアセスメントとは 2) 看護におけるフィジカルアセスメントの構成と基礎技術 3) 看護におけるフィジカルアセスメントの実際 ・全身状態 ・循環器系 ・呼吸器系 ・腹部 4) 身体各部の計測			講義 演習	
12 13-14	3. 臨床判断の基礎 1) 臨床判断の理論 2) 臨床判断の実際			講義 演習	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座: 専門分野 I - 基礎看護技術 I・II - 第16版, 医学書院 ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえる vol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえる vol.2-臨床看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえる vol.3-臨床看護技術-, メディックメディア ・看護学生お役立ちカード, 照林社 				<ul style="list-style-type: none"> ・筆記試験 ★60点未満は、再試験 	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> ・三上れつ他: 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ヌーヴェルヒロカワ ・志自岐康子他: ナーシング・グラフィカ⑩-基礎看護技術-第4版, メディカ出版 ・山口瑞穂子: 看護技術-講義・演習ノート-上下巻, 医学芸術社 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅴ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 診療に伴う看護の役割と援助方法を学ぶ。検査時の看護、薬物療法と看護さらに健康障害を持つ対象に対し経過別・症状別・治療処置別等に応じた基礎的知識及びその援助方法を学ぶ。					
【目標】 1. 検査の意義や安心して検査を受けるための看護の役割を理解する。 2. 薬物取り扱い上の法的責任を理解し、与薬の意義や方法を習得する。 3. さまざまな健康レベルにある対象の特徴を理解し看護の機能と役割を学ぶ。 4. 健康障害にある対象の主な症状の基礎知識を理解し援助方法を学ぶ。 5. 対象に行われる治療・処置の原理・原則を理解し看護援助の実際を学ぶ。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 検査時の看護 1) 検査の意義と種類 2) 検査時の看護者の役割 3) 検査を受ける患者への援助方法 ・便、尿、喀痰、血液検査 検体の取り扱い、検査時の介助			講義	
2-3 4-5	2. 薬物療法と看護 1) 薬物療法の意義、法的責任について 2) 薬物の名称と種類 3) 薬物の作用と影響する因子 4) 薬物の副作用とその特徴、禁忌 5) 薬物療法における看護師の役割 6) 薬物適応の援助 ・経口与薬法、坐薬与薬法、塗布法 ・吸入法、点眼法、点耳法など 経口薬の投与、経皮・外用薬の投与、坐薬の投与			演習 講義	
6-7 8-9	3. 経過別看護 1) 経過別看護とは 急性期・慢性期・回復期・リハビリテーション期の看護 2) 終末期にある患者の看護			演習 講義	
10	筆記試験(1回目)				
11	4. 症状別看護 安楽を阻害する因子と安楽への援助			講義	
12	1) 痛み・発熱のある患者の看護 ・罨法とは、罨法の種類 ・罨法の効果と適用 ・罨法施行時の一般原則と注意事項 ・体温調節の援助、安楽の促進 ・苦痛緩和のためのケア ・精神的安寧を保つためのケア			演習	
13	2) 呼吸器・循環器障害を持つ患者の看護			講義	
14	・呼吸不全、循環不全 ・酸素吸入療法の実施			演習	
15	3) 消化器症状と看護			講義	
16	4) 認知や知覚に関連する症状を示す 対象者の看護			講義	
17-18	5. 治療・処置別看護			講義	
19-20	1) 創傷処置と看護 ・看護に必要な基礎知識 ・創傷治療が必要な患者への援助 ・褥創処置 ・包帯法とその実際 ・創傷処置、使用した器具の感染防止の取り扱い ・無菌操作			演習	
21	2) 救急法と看護			講義	
22	・救急状況にある患者の特徴 ・救急状況にある患者及び家族への援助 ・緊急時の応援要請、BLS、止血法の実施			演習	
23	まとめ・筆記試験(2回目)				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ・Ⅱ-第16版, 医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④臨床看護総論, 第6版, 医学書院 ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえるvol.1-基礎看護技術-, メディックメディア ・医療情報科学研究所: 看護技術がみえるvol.2-臨床看護技術-, メディックメディア				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・三上れつ他: 演習・実習に役立つ基礎看護技術 第3版, ニューヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論VI		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・GW・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 看護過程にそって看護の実践を行うことの意義と重要性が理解でき、教育的関わりの方法および具体的展開の方法を学ぶ。					
【目標】 1. 看護過程の意義を理解できる。 2. 看護過程の構成要素とプロセスを理解する。 3. 教育的関わりの対象、過程及び方法を理解する。 4. 紙上事例を使い対象の日常生活家庭を整えるための看護過程が展開できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	看護過程の概念			講義	
2	看護過程の各段階(アセスメント)			講義	
3	事例疾患理解①(病態関連図)			講義	
4	事例疾患理解②(看護問題の明確化)			講義	
5	事例疾患理解③(計画)			講義	
6	教育的関わり①(学習支援)			講義	
7	紙上事例①			GW	
8	紙上事例②			GW	
9	看護過程発表①			発表	
10	看護過程発表②			発表	
11	事例疾患理解④(実施)			講義	
12	教育的関わり②(学習支援)発表			発表	
13	教育的関わり③(学習支援)発表			発表	
14	事例疾患理解⑤(実施:SOAP、評価)			講義	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
・秋葉公子他:看護過程を使ったヘンダーソン看護論の実践 第4版, ヌーヴェルヒロカワ ・系統看護学講座:専門分野 I -基礎看護技術 I -第16版, 医学書院				・筆記試験 ・発表 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・吉澤理:関連図の書き方をマスターしよう, 医学芸術社 ・任和子:看護学生必修シリーズ改訂版 看護過程展開ガイド-ヘンダーソン、ゴードン、NANDAの枠組みによる-, 照林社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅶ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害を持つ対象に対し経過別・症状別・治療処置別等に応じた基礎的知識及び侵襲のある援助方法を学ぶ。					
【目標】 1. 侵襲を伴う看護援助の実際を学ぶ。 2. 健康障害にある対象の主な症状の基礎知識を理解し援助方法を学ぶ。 3. 対象に行われる治療・処置の原理・原則を理解し看護援助の実際を学ぶ。 4. 医療用機器を安全、効果的に取り扱うための原則を知り機器と共存する対象への援助方法を学ぶ。 5. 脳神経系のフィジカルイグザミネーションが正確に実施でき、正常と異常が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1 2-3	1. 侵襲を伴う排泄の援助 1) 導尿 ・一時的導尿・持続的導尿 ・膀胱留置カテーテルの管理 ・導尿または膀胱留置カテーテルの挿入 2) 洗腸			講義 演習	
4 5-6	2. フィジカルアセスメント② 1) 脳神経系のフィジカルアセスメント			講義 演習	
7-8 9-10	3. 侵襲を伴う呼吸器障害を持つ患者の看護 1) 排痰ケア ・咳嗽介助、ハフティング ・ネブライザーを用いた気道内加湿 ・口腔鼻腔内吸引、気管内吸引、体位ドレナージ			講義 演習	
11	4. 放射線療法と看護 ・看護に必要な基礎知識 ・放射線療法が必要な患者への援助 ・放射線被ばく防止策の実施			講義 演習	
12	筆記試験(1回目)				
13	5. 医療機器の原理と実際 1) 医療機器の原理と実際			講義	
14 15-16	6. 採血の技術 1) 静脈血採血 ・検体の取り扱い、検査の介助 ・静脈血採血 ・針刺し事故の防止・事故後の対応 2) 動脈血採血 3) 血糖測定			講義 演習	
17-18 19-22	7. 薬物療法と看護(注射法) 1) 注射実施にともなう危険性、法的責任 2) 安全な注射実施の方法 ・皮下注射、皮内注射、筋肉内注射 ・静脈内注射、点滴静脈内注射 ・静脈路確保 ・点滴静脈内注射の管理、薬剤等の管理 ・人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策			講義 演習	
23	まとめ・筆記試験(2回目)				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門分野Ⅰ-基礎看護技術Ⅰ,Ⅱ,-第16版,医学書院 ・系統看護学講座 専門Ⅰ 基礎看護学④臨床看護総論,医学書院 ・医療情報科学研究所: 看護がみえるvol.1,基礎看護学技術,メディックメディア ・医療情報科学研究所: 看護がみえるvol.2,基礎看護学技術,メディックメディア				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・三上れつ他: 演習・実習に役立つ基礎看護技術,第3版,ヌーヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学方法論Ⅷ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	

講義の目的と目標

【目的】

事例研究に必要な基本的な知識、技術及び態度について学ぶ。実践してきた看護について事例研究を通して、科学的根拠や看護理論と照らし合わせ、論文としてまとめることにより自己の看護観を深め、よりよい看護実践が迫及できる知識・技術・態度を養う。

【目標】

1. 事例研究の方法及びプロセスを理解できる。
2. 研究に必要な基本的な知識、技術及び態度を身につけることができる。
3. 実践した看護を客観的・科学的・論理的に捉え論文としてまとめることができる。

講義数	講義内容	教育方法	備考(その他時間)
1	1. 看護における研究 1) 看護実践と理論の統合 ・看護実践と理論と研究の関連性 2) 看護実践と研究 ・根拠に基づく実践、根拠の活用 ・研究-根拠-実践のサイクル 3) 研究の種類 ・質的研究(事例研究) ・量的研究	講義	
2	2. 事例研究のプロセス 1) 研究計画書の作成 ・研究テーマの選定 ・研究の背景 意義や目的の明確化 ・研究方法(情報収集、分析方法) ・倫理的配慮 タイムスケジュール	講義	
3	2) 文献検索	講義	
4	・文献の読み方及び整理 ・文献検索、コンピュータ検索	演習	
5	3) 考察 ・理論や文献の活用	講義	
6	4) 発表方法	講義	
7	3. 事例研究の実際 1) 卒業論文の構成	講義	
8	・テーマ、研究期間、緒言、事例紹介、看護の展開、考察、結語、文献	演習	
9-11	2) 卒業論文の作成 ・研究計画書 ・論文 抄録集 ・発表原稿	演習	
12-15	3) 卒業論文発表会	演習	

使用テキスト

・高橋百合子編:看護学生のためのケーススタディ第3版,メヂカルフレンド社,1992

評価方法

・論文、発表

★60点未満は、再試験

参考図書

- ・沢禮子:基礎看護学1 看護学概論. 金原出版, 2004
- ・矢野正子:看護管理・看護研究・看護制度. メヂカルフレンド社, 2005
- ・川村佐和子:看護研究. メディカ出版, 2007
- ・松本孚他:看護のためのわかりやすいケーススタディの進め方, 照林社, 2007

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護概論		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／後期		15時間／1単位／8回		講義	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 在宅看護の歴史の変遷を踏まえ、在宅看護の理念と対象・場を理解し、在宅看護の役割・機能を学ぶ。</p> <p>【目標】 1. 社会のニーズにともなう在宅ケア制度の変遷が理解できる。 2. 地域で療養する対象者とその家族のニーズが理解できる。 3. 在宅看護の意義の必要性が理解できる。 4. 在宅看護に関わる職種と連携の必要性について理解できる。 5. 保健医療福祉サービスを提供するチームの一員として、看護者の役割・機能が理解できる。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	<p>1. 在宅看護の概念</p> <p>1) 地域療養を支える看護 (1) 在宅看護とは (2) 個人を対象とする在宅看護 (3) 集団を対象とする公衆衛生看護</p> <p>2) 日本の在宅看護の歴史と現状 (1) 日本の在宅看護の変遷と社会背景 (2) 在宅看護が必要とされる社会背景</p> <p>3) 在宅ケアと在宅看護 (1) 在宅チームケアの意義 (2) 在宅ケアの目的 (3) 在宅ケアにおける看護の特徴 (4) 継続看護の視点 (5) 在宅ケアチームにおける看護職の役割</p>			講義	
3-5	<p>2. 在宅療養者と家族の支援</p> <p>1) 在宅療養を必要とする人たち 2) 在宅療養の成立要件 (1) 本院が在宅療養を希望していること (2) 家族に在宅療養を受け入れる意思があること (3) 療養できる居住環境が整備されていること (4) 地域に医療・看護の提供機関があること (5) 地域に在宅ケアシステムが整っていること (6) 在宅療養をコーディネートする介護支援専門員が身近にいること</p> <p>3) 在宅療養者への看護活動 (1) 健康管理 (2) 日常生活行動の自立支援 (3) 病状・病態の予測と予防 (4) 療養上のリスクマネジメント</p> <p>4) 在宅看護と家族 (1) 家族とは(レポート: 自分の家族観) (2) 家族と看護</p> <p>5) 家族介護者の個別性に応じた支援 (1) 家族による介護の状態 (2) 介護負担に影響する要因 (3) 介護によって家族にもたらされる影響 (4) 介護力に応じた家族支援</p>			講義	
6-7	<p>3. 在宅ケアの連携とマネジメント</p> <p>1) 在宅ケアとマネジメント 2) 在宅ケアにおける関係機関・関係職種との連携・協働 3) 地域包括ケアシステムと在宅ケア</p>			講義	
8	筆記試験①				
使用テキスト				評価方法	
<p>・(新)地域・在宅看護論 地域を支えるケア 在宅看護論 メディカ出版</p> <p>・系統看護学講座: 在宅看護論 医学書院</p>				<p>・筆記試験</p> <p>・課題レポート</p> <p>★60点未満は、再試験</p>	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／前期		20時間／1単位／10回		講義・演習	

講義の目的と目標

【目的】

暮らしの場や、活動の場などのフィールドに出向き、探求心を持って主体的に地域住民と関わりを持ち、地域の課題を考えることが出来る。

自助・互助・共助・公助の繋がりを学ぶ。

【目標】

1. 対象を生活者として捉え、その人らしい生活を理解できる。
2. 多職種との連携・協働について理解できる。

講義数	講義内容	教育方法	備考(その他時間)
1	1. 暮らしの場 1)「暮らす」とは	講義	
2-5	2)「支え合って生きること」とは 3)暮らしと地域の関わり(フィールドワーク) (1)自治会(公民館) ・住民の自助活動や互助の様子を知る ・住民の集い場所や閉じこもり等の課題等を知る (2)幹線道路・公共施設・スーパーなど、環境が生活に与える影響 ・島嶼での暮らし 平安座島・浜比嘉島・宮城島・伊計島 ・自然環境、社会環境、文化的環境	演習	
6-7	(3)警察署・消防署・学校・青年会などとの連携	演習	
8-9	(4)発表準備	演習	
	(5)グループ発表	演習	
10	2. 生活の場での健康支援 (6)健康支援活動の場 ・市町村(介護長寿課・子ども支援課) ・健康福祉センターうるみん ・地域包括支援センター	講義	

使用テキスト

・(新)地域・在宅看護論

評価方法

・課題レポート

★60点未満は、再試験

参考図書

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅱ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		15時間／1単位／8回		講義・演習	

講義の目的と目標

【目的】

疾病や障がいの有無にかかわらず、地域で暮らし、多様な場で活躍(社会参加)することが、生きること・健康に影響を与えることを理解する。

【目標】

1. 対象を生活者として捉え、その人らしい生活を理解できる。
2. 看護の役割を理解し、多様な場で多職種と連携・協働しチームの一員として行動できる。

講義数	講義内容	教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. その人らしく過ごす活動の場 1) 日中の活動の場を知る ・障害者自立支援事業所 ・通所介護 ・通所リハビリテーション ・特別支援学校	講義	
3-5	2) 多様な場での暮らしを知る ・介護老人保健施設 ・介護老人福祉施設 ・サービス付き高齢者向け住宅 ・グループホーム ・社会福祉施設(障がい児・者入所施設)	講義	
6-8	3) 発表準備 4) グループ発表 5) まとめ	演習	

使用テキスト	評価方法
・(新)地域・在宅看護論	・課題レポート ★60点未満は、再試験

参考図書

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅲ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		45時間／2単位／23回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 在宅看護に必要な看護援助を学び、対象の抱えるニーズを把握し、セルフケア能力を高めるための支援と生活の質(QOL)の維持・向上に向けての支援方法を学ぶ。					
【目標】					
1. 在宅看護を支える訪問看護の目的、制度、実施機関、法的責任及び訪問看護師の役割を理解する。					
2. 対象の日常生活と家族支援の視点に基づいた支援活動が理解できる。					
3. 訪問看護に必要な基礎的な看護技術について理解できる。					
4. 対象に応じた日常生活援助の援助技術の工夫が考えられる。					
5. 療養者の生活の場において看護を提供する者としての態度を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	1. 在宅療養を支える看護 1) 訪問看護の特徴 (1) 訪問看護とは (2) 訪問看護の制度と現状 (3) 訪問看護における看護職 2) 在宅ケアを支える訪問看護ステーション (1) 訪問看護ステーションの設置と管理運営 (2) 従業者 (3) 対象者 (4) サービス内容 (5) サービスの流れ (6) 利用料 (7) 訪問看護制度の課題と今後の方向性 3) 訪問看護の実際 (1) 訪問看護における看護過程の特徴 (2) 訪問看護過程の実際 (3) 在宅看護介入時期別の特徴 4) 訪問看護の記録 (1) 訪問看護記録の意義 (2) 訪問看護で使用する記録 (3) 訪問看護記録を記入するときの留意点 5) 在宅ケアにおける感染症 (1) 対応のポイント (2) 在宅療養者によくみられる感染症			講義	
4-11	2. 対象に応じた在宅看護 1) ALS・パーキンソン病、難病療養者への援助 2) 誤嚥性肺炎を生じた高齢者への援助 3) インスリン自己注射を行っている糖尿病療養者への援助 4) 在宅療養を開始する重症心身障害児への援助 5) 認知症療養者と生活の自立を目指す精神障害者への援助 6) 在宅で終末期を迎える療養者			講義	
12	筆記試験(1回目)				
13-22	3. 在宅療養に必要な治療と看護 1) 褥創予防・褥創処置 2) 栄養状態改善のケア 3) 輸液 4) 在宅中心静脈栄養法 5) 膀胱留置カテーテル 6) 在宅人工呼吸療法 7) 非侵襲的陽圧換気療法 8) 在宅酸素療法 9) ストマ管理 10) 疼痛緩和			講義	
23	まとめ・筆記試験(2回目)				
使用テキスト				評価方法	
・(新)地域・在宅看護論 地域を支えるケア 在宅看護論 メディカ出版 ・系統看護学講座:在宅看護論 医学書院				・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護方法論Ⅳ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 事例を通して看護過程を学び、個別的な在宅ケア支援のための保険・医療・福祉のネットワークの方法活用・継続看護の方法を学ぶ。					
【目標】 1. 訪問看護に関連する社会資源を理解し、それに関わる職種と連携の必要性について理解できる。 2. 紙上事例における看護過程の展開を通し、訪問看護の展開のプロセスが理解できる。 3. 個々の対象の特性、在宅ケア支援のための継続看護の方法が理解できる。 4. シミュレーション学習を通し、在宅看護における基礎的知識・技術・倫理的態度の統合ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 在宅ケアを支える制度と社会資源 1) 社会資源の活用 ①在宅ケアを支える医療保険制度 ②高齢者を支える制度と社会資源 ③障害者の在宅療養を支える制度と社会資源 ④在宅難病療養を支える制度と社会資源 ⑤子どもの在宅療養を支える制度と社会資源 ⑥在宅療養者の権利を擁護する制度と社会資源			講義	
3-4	2. 在宅における看護過程 1) 在宅での看護過程の特徴 (1) 在宅と看護過程 ①在宅看護過程とは ②在宅看護過程の特質 (2) 在宅での看護過程展開の視点 ①在宅ケアの理由確認と対象把握 ②問題解決のためのデータを含む情報収集 ③継続看護のための体制づくり ④初回訪問の実際 ⑤看護アセスメント ⑥支援目的の共有化 ⑦在宅看護計画の立案 ⑧訪問看護の実施 ⑨ケア及び看護計画の評価 ⑩訪問の終結 ⑪在宅看護実践の価値評価			講義	
5-12	3. 看護の実際 1) 事例を用いた看護過程の実際			演習	
13-15	2) 地域・在宅看護論実習での臨床判断の実際 (1) 小児、ALS、精神疾患、終末期の療養者及び家族とのコミュニケーションの場面			演習	
使用テキスト				評価方法	
・(新) 地域・在宅看護論				・課題レポート ・シミュレーション評価 ★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
健康支援と看護		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 基礎看護学で既習した個人への学習支援技術を土台に、健康行動モデルやライフステージ各期における健康上の課題および学習支援の特徴を学び、個人・集団への健康学習支援実践能力を高める。					
【目標】					
1. 健康学習支援における看護師の役割について述べるができる。					
2. 代表的な健康行動モデルについて述べるができる。					
3. 行動変容に影響する要因および行動変容ステージ別支援方法について述べるができる。					
4. ライフステージ各期の健康課題と健康を守る法律・施策について述べるができる。					
5. ライフステージ各期における学習支援の特徴を述べるができる。					
6. 学習支援の基礎理論・行動変容ステージモデルを活用し、(紙上事例において)対象が健康課題解決に向け行動変容できるような個別指導・集団指導の工夫ができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 健康学習支援 1) 健康学習支援とは 2) 社会の変化と保健に関わる意義 3) 健康学習支援の必要性と看護師の役割			講義	
2-3	2. 健康教育の変遷と基礎理論 1) 健康教育の変遷と基礎理論 (1) KAPモデル (2) ヘルスビリーフモデル (3) トランスセオレティカルモデル (4) プリシード・プロシードモデル 2) エンパワメント 3) 自己効力理論 4) 行動変容に影響する要因 5) 行動変容ステージ別支援方法			講義	
4	3. ライフステージにおける健康課題と学習支援 1) ライフステージにおける健康課題と学習支援 (1) 小児: プレパレーションの概念			講義	
5	(2) 成人期: 成人各期の健康問題と保健・医療・福祉施策 働く人の健康課題と管理: 産業保健			講義	
6	(3) 老年期: 高齢者の健康を守る施策			講義	
7	2) 女性のライフステージ各期における健康問題と学習支援 : 母性保健に関する施策			講義	
8-9	3) 精神(心)の健康のための学習支援			講義	
10-14	4. エンパワメントエデュケーション(理論を活用した健康学習支援の実際) 1) エンパワメントエデュケーション(理論を活用した健康学習支援の実際) (1) 個別的健康学習支援(グループワーク・ロールプレイ) (2) 集団的健康学習支援(グループワーク・ロールプレイ) まとめ			演習	
15	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ・グループワークレポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
各領域の看護学概論で使用した教科書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
薬物療法と看護		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 薬物療法の基本的知識を踏まえ、特別な薬物の管理や看護の実際、各発達段階の対象特性に応じた薬物療法を学ぶ。さらに代表的な症状における薬物療法の看護の実際を展開する。					
【目標】					
1. 輸血療法、抗がん剤治療における看護の実際を説明できる。					
2. 特別な管理を要する薬剤の管理を実施できる。					
3. 薬物動態を踏まえ、各発達段階の対象特性に応じた薬物療法の看護の実際を説明できる。					
4. 薬物動態を踏まえ、代表的な症状における薬物療法における看護の実際の演習を通して説明できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 薬物療法における看護の役割 (1)正しい投薬 (2)薬の管理			講義	
2	2. 輸血療法・抗がん剤治療における看護 ①暴露予防と看護 ②援助の基礎知識と実際、副作用の観察			講義	
3	3. 特別な管理を要する薬剤の管理 1)特別な管理を要する薬剤の管理			講義	
4-5	(1)毒薬 (2)劇薬 (3)麻薬 (4)血液製剤 (5)抗悪性腫瘍薬 2)インスリン療法と看護 3)ステロイドパルス療法と看護			演習	
6	4. 薬物療法における小児期・妊産婦の対象特性と看護 (1)小児期における対象特性と看護 (2)妊産婦における対象特性と看護			講義	
7	5. 薬物療法における老年期の対象特性と看護 (1)加齢に伴う薬物動態の変化 (2)高齢者に特徴的な薬物有害事象 (3)老年症候群 (4)薬物療法における援助			講義	
8	6. 精神科薬物療法の看護 (1)精神科薬物療法とは (2)精神科薬物療法における看護の役割 (3)薬物療法の実際 (4)患者にとって向精神薬の服用はどのような意味をもつか？			講義	
9	7. 自己管理が困難な患者・療養者の服用の実際 1)障害をもつ人のセルフマネジメント (1)セルフマネジメントの背景 (2)セルフマネジメントのための疾病教育 (3)服薬自己管理 2)自己管理が困難な患者・療養者の服薬の実際			講義	
10-14	8. 薬物療法を行っている患者の症状別看護の実際 1)薬物療法を行っている患者の症状別看護の実際(6事例) (1)利尿薬(浮腫) (2)解熱・鎮痛薬(疼痛) (3)下剤(便秘) (4)抗凝固薬 (5)鉄剤(貧血) (6)抗がん剤 ①病態、症状 ②薬理作用の機序 ③関連図・看護目標と計画 2)看護の実際(発表)			演習	
15	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ・成果物 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
1. 新体系 看護学全書 疾病の成り立ちと回復の促進③薬理学 メヂカルフレンド社 2. 薬がみえる〈vol.4〉薬力学/薬物動態学/相互作用/製剤学/薬剤の使用と実務薬物が見える メディックメディア,2020.					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
周手術期と看護		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 周手術期における生体反応、発達段階による身体的・精神的・社会的な影響を踏まえた周手術期の看護の実際を学ぶ。					
【目標】					
1. 周術期にあつ対象とその家族の三側面(身体的・精神的・社会的)にもたらす影響を説明できる。					
2. 麻酔侵襲及び手術侵襲が生体の及ぼす影響(生体反応)について説明できる。					
3. 術後合併症のアセスメントや予防するための看護実践を説明できる。					
4. 各発達段階における周術期看護の特徴を説明できる。					
5. 術後合併症を予防する看護の実際を、シミュレーションを通して修得することができる。					
6. 手術により対象及び家族の生活やボディイメージにどのような影響を及ぼすのかを考え、看護の実際を説明することができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 周術期の看護の概要と看護師の役割 看護の概要と看護師の役割			講義	
2	2. 術後合併症 1) 麻酔とは、麻酔の種類 2) 麻酔によって起こりうる術後合併症 3) 手術侵襲 4) 生体反応及び手術によって起こりうる術後合併症			講義	
3-4	3. 術前の患者の看護 1) 術前アセスメント・術前オリエンテーション・術前の患者の身体的/心理的準備と援助			講義	
5-6	4. 術中の患者の看護 1) 手術室の看護師の役割 2) 手術室の環境・清潔域/不潔域 3) 器械出し及び外回り看護師の役割 4) 患者入室から退室までの看護プロセス			講義	
7-8	5. 術後の患者の看護 1) 術後日数に応じた看護(術直後～退院までの看護) 2) 術後ベッド・術直後の観察の視点 3) 疼痛緩和・早期離床・ドレーン管理・創傷管理 4) 退院支援について 5) 特殊な術式・重症集中治療を受ける患者の看護			講義	
9-11	6. 周術期の看護の実際 事例とクリニカルパス(シミュレーション) 1) 術前オリエンテーションの実際 2) 術後1日目の看護の実際			演習	
12	7. 発達段階における看護			講義	
13	1) 高齢者・精神疾患をもつ対象と手術				
14	2) 手術を受ける子どもとその家族の看護				
14	3) 帝王切開を受ける産婦の看護				
15	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ・シミュレーション ★60点未満は、再試験	
参考図書					
1. 新体系 看護学全書経過別成人看護学② 周術期看護 メジカルフレンド社					
2. 周術期看護学習ワークブック メジカルフレンド社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
終末期と看護		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／後期		20時間／1単位／10回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 死を迎えつつある人に必要な症状のコントロールや家族のケアについて学習する。また、多様な場においての緩和ケアおよび悲嘆とそのプロセスに応じた援助、ならびにグリーフケアについて学習し、事故の死生観を養う。					
【目標】 1. 終末期にある人の身体的・精神的・社会的・霊的的反応の特徴について学び、説明できる 2. 終末期の意味と現状・課題・倫理的課題について説明できる 3. 終末期にある人と家族の特徴・家族の死のとらえ方について説明できる 4. 終末期にある人の緩和ケアについて説明できる 5. 終末期にある人の死の徴候と看護が説明できる 6. 看取りとグリーフケアの実際について説明できる 7. 各発達段階(小児・成人・老年)の終末期ケアについて特徴がわかる 8. 多様な場における終末期ケアについて実践を通して学び、死生観を深めることが出来る					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 終末期の定義と概念 1) 終末期とは (1) 終末期看護の概念と特徴 ・WHOの終末期の定義 ・全人的苦痛 (2) 終末期医療の現状と課題 ・ホスピスケア ・緩和ケア (3) 終末期における倫理的課題 (4) インフォームドコンセント (5) 死にゆく人の心理過程 ・キューブラーロス			講義	
2	2. 終末期にある患者・家族の生活の援助 1) 終末期にある患者の援助 (1) ターミナルケア (2) リラクゼーション(補完代替療法) (3) 看取り ・危篤時、臨死時のケア、死の受容 ・多職種との看取りのサポート 2) 終末期患者の家族への援助 (1) 家族ケア (2) エンゼルケア (3) 事前指示(リビングウィル)			講義	
3	3. 発達段階における終末期の看護 1) 老年期における終末期の看護 (1) エンド・オブ・ライフケア (2) 「生ききる」ことを支えるケア ・日本人の死生観、死の準備状況 (3) 意思決定支援 ・高齢者の尊厳、「人生の最終段階における医療」 (4) アドバンスケアプランニング AD、DNAR			講義	
4	2) 成人期における終末期の看護 (1) 終末期にある成人の健康問題をめぐる状況 (2) 終末期にある人への看護 ・終末に対する意識、除痛ケア、麻薬について ・症状マネージメント (3) 家族への支援: 大切な人を失う悲しみを支える ・家族のストレス、家族の意識 (4) 死を考える-最期まで自分らしく生きるために			講義	
5	3) 周産期における終末期の看護 (1) 人工妊娠中絶と看護 (2) 児を亡くした褥婦・家族への看護 ・グリーフケア			講義	
6	4. 多様な場における終末期の看護 4) 終末期における子どもと家族の看護 (1) 小児の死の概念 (2) 終末期における小児の心理 (3) 小児の終末期における家族の心理 (4) 終末期の小児の緩和ケアと死にゆく小児の家族への援助 ・チームアプローチ			講義	
7	5. 終末期看護の展開 1) 終末期にある療養者の看護 (1) 看取りの場の推移(多様な場) (2) 終末期における保健医療福祉チームと看護職の役割			講義	
8-9	2) 終末期看護の実践(グループワーク・シミュレーション) (1) 病院における終末期看護 (2) 保健医療福祉チームと看護職の役割 (3) 死生観についてのレポート作成			演習	
10	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
				・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
1. 看護学テキスト がん看護 様々な発達段階・治療経過にあるがん患者を支える 南江堂 2. 緩和ケア 尊厳ある生と死、大切な生活をつなぐ技と心 南江堂					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
臨床判断と看護		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 これまでの学習内容を統合し、臨床の場の減少にひもづけて考える経験を通して、臨床判断の基礎的能力を身につける。 看護実践につながる見方、考え方を学ぶ。					
【目標】 1. 既習の知識を統合し、対象の状態や環境の変化に気づくことができる 2. 気づきをアセスメントにつなげ、解釈することができる 3. 解釈を元に、次の看護実践を考え、実践することができる 4. 適切なリフレクションを行うことができる					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 臨床判断とは 1) 臨床判断とは 2) Tannerの臨床判断モデル 「気づく」「解釈」「反応」「省察」 単元2～6は、各実習前週にグループ単位で行われる1名ずつシミュレーションを行う。提示された事前学習を必ず行い参加すること。			講義	
3-5	2. 成人看護学実習Ⅱでの臨床判断の実際 1) 術後患者の全身状態の観察場面 術後1日目の合併症の観察とその対応 ・術後生体反応 ・水分出納			演習	
6-7	3. 老年看護学実習での臨床判断の実際 1) 回復期患者の日常生活援助の場面 転倒リスクのある患者へのトイレ介助 ・加齢による身体的変化			演習	
8-10	4. 精神看護学実習での臨床判断の実際 1) 統合失調患者とのコミュニケーションの場面 精神症状出現時の患者への対応 ・治療的関わり			演習	
11-12	5. 母性看護学実習での臨床判断の実際 1) 産褥患者の観察場面 産褥1日目の進行性変化と退行性変化の観察			演習	
13-15	6. 小児看護学実習での臨床判断の実際 1) 小児患者のフィジカルアセスメントとバイタルサイン測定と身体計測の場面 ・呼吸音と心音			演習	
使用テキスト				評価方法	
				・シミュレーション内容レポート ・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
1) 各領域で使用している教科書 2) アセスメントに自信がつか臨床推論入門：看護の臨床判断能力を高める推論トレーニング 小澤知子(著、編集)メディカ出版 3) 実践につよくなる看護の臨床推論：ケアを決めるプロセスと根拠 石松伸一(監修) 学研メディカル秀潤社					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		20時間／1単位／10回		講義	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 成人看護学の概念と成人期の特徴と対象を理解し、成人期の保健・医療・福祉の動向と課題、倫理と看護者の役割について学ぶ。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 成人看護学の概念と成人期の特徴を理解する。 成人期にある人の健康問題について理解し、あらゆる健康レベルに応じた援助方法を理解する。 成人期にある人の基本的な看護援助について理解する。 					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	<p>1. 成人の生活と健康</p> <p>1) 成人看護の対象である「成人」とは</p> <p>(1) 人の一生における成人期の位置</p> <p>(2) 成長・発達過程からみた成人の特徴</p> <p>2) 成人を取り巻く社会環境と成人の生活</p> <p>(1) 働くことと生活</p> <p>(2) 家族との関係、多様なライフスタイル</p>			講義	
3-4	<p>2. 成人への看護アプローチの基本</p> <p>1) 健康障害をもつ成人にかかわる際の基本的な視点</p> <p>(1) 成人期にある人が健康障害をもつことの意味</p> <p>(2) 健康生活を支える人間関係の構築</p> <p>(3) 患者・家族の意思決定を支える</p> <p>(4) 健康の危機状況への適応</p>			講義	
5-9	<p>3. 成人の健康レベルに対応した看護</p> <p>1) 成人の健康状態に応じた看護</p> <p>(1) 急性期: 健康の危機状況への支援</p> <p>(2) 慢性期: 健康生活の継続への支援</p> <p>(3) リハビリテーション: 生活の再構築への支援</p> <p>(4) 終末期: 人生の最期を迎える人と家族に寄り添う</p>			講義	
10	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
<p>・新体系看護学全書 成人看護学①成人看護学概論成人保健 メデカルフレンド社</p>				<p>・筆記試験</p> <p>・レポート</p> <p>★60点未満は、再試験</p>	
参考図書					
<p>・国民衛生の動向</p>					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 急激な身体侵襲で生命の危機状態にある対象の特徴を理解すると共に回復を促進する援助について学ぶ。					
【目標】 1. 循環機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 2. 呼吸機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 3. 消化機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 4. クリティカルケア看護の特徴と看護の役割を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	1. 循環機能障害をもつ対象の看護 1) 循環機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1) 循環機能障害が対象に及ぼす影響 (身体的問題・心理的問題・社会的問題) 2) 疾患をもつ対象の看護(各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1) 虚血性心疾患 (2) 心不全 (3) 不整脈・弁膜症 主要症状: 胸痛、動悸、ショック、呼吸困難、NYHA、心機能分類 検査: 心電図、胸部レントゲン検査、心エコー検査、血行動態モニタリング、CT・MRI検査 治療・処置: 薬物療法、心臓カテーテル治療、ペースメーカー、ICD、開胸手術・冠動脈バイパス術、弁置換術・血栓除去術			講義	
4	3) 十二誘導心電図検査			演習	
5-7	2. 呼吸機能障害をもつ対象の看護 1) 呼吸機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1) 身体的問題・心理的問題・社会的問題 2) 疾患を持つ対象の看護(各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1) 肺炎 (2) 慢性閉塞性肺疾患 (3) 気胸 (4) 肺癌 主要症状: 咳、痰、喀血、呼吸困難、チアノーゼ 検査: 喀痰検査、胸水検査、生検、気管支鏡検査、動脈血ガス分析、肺機能検査 治療・処置: 吸入療法、呼吸理学療法、胸腔ドレナージ、人工呼吸器			講義	
8	3) 胸腔ドレナージ、人工呼吸器を装着している患者の看護			演習	
9-11	3. 消化機能障害をもつ対象の看護 1) 消化機能障害をもつ対象の特徴とその看護 (1) 身体的問題・心理的問題・社会的問題 2) 疾患を持つ対象の看護(各疾患の症状・検査・治療・処置を含む) (1) 食道癌、胃癌 (2) 大腸・直腸癌・人工肛門増設 (3) 胆のう炎・胆石症、膵炎、肝癌 主要症状: 悪心・嘔吐、腹痛、吐血、下血、便秘食欲不振、黄疸、体重減少 検査: 造影検査、内視鏡検査 治療・処置: 食事療法、経腸栄養、手術療法			講義	
12-13	4. クリティカルケア 1) 救命救急室における看護の役割 (1) 救急医療体制と救急医療及び看護の特徴 (2) 救命救急法(二次救急)			講義 演習	
14	2) 集中治療室における看護の役割			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・新体系 看護学全書経過別成人看護学② 周術期看護 メジカルフレンド社 ・周術期看護学習ワークブック メジカルフレンド社				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・新体系 看護学全書 成人看護学① 成人看護学概論成人保健 メジカルフレンド社 ・系統看護学講座:成人看護学[2] [3] [5], 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅱ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
生涯にわたり疾病の自己管理を必要とする対象の看護、対象とその家族が健康障害を受容する過程やセルフケアを高める援助の方法を学ぶ。					
【目標】					
1. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
2. 血液・造血管障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
3. 免疫・感染機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
4. 腎・泌尿器機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、看護の方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の看護 1) 内分泌・代謝機能障害をもつ対象の特徴とその看護 1)-①内分泌疾患・下垂体疾患患者の看護(甲状腺・下垂体疾患) 特徴:身体的・心理的・社会的問題 症状:全身性・抵抗力低下による症状、精神症状 検査:内分泌機能検査、負荷試験(血中濃度・尿中量測定)など 治療:ホルモン補充療法、外科的療法(経蝶形骨洞下垂体腫瘍摘出術)			講義	
2	1)-②副腎疾患・代謝機能疾患患者の看護 (副腎腫瘍、脂質異常症、痛風・高尿酸値血症) 症状:副腎腫瘍による症状、痛風発作 検査:血液検査、尿検査(蓄尿)など 治療:食事療法、運動療法、薬物療法、外科的療法(副腎摘出術)				
3-6	2) 糖尿病をもつ対象の看護 (1)対象理解(身体的・心理的・社会的問題)			講義	
7	(2)症状看護(口渇、多飲、多尿、体重減少、易感染・合併症) (3)検査を受ける対象の看護 糖尿病検査法 血糖測定 経口ブドウ糖不可試験 ヘモグロビンA1C 尿糖・尿ケトン検査 (4)血糖測定 (5)治療(運動療法・食事療法・薬物療法) ※インスリン療法については「薬物療法と看護」で習得する。			演習	
8	2. 血液・造血管障害をもつ対象の看護 1) 血液・造血管障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)身体的問題 (2)心理・社会的問題 (3) 2) 症状に対する看護 (1)貧血 (2)出血傾向 3) 検査を受ける対象の看護 (1)抹消血検査 (2)骨髄穿刺・生検 4) 治療・処置を受ける対象の看護 (1)放射線療法を受ける対象の看護 (2)造血幹細胞移植 5) 疾患をもつ対象の看護 (1)白血病			講義	
9-10	3. アレルギー・免疫機能障害をもつ対象の看護 1) 膠原病患者の看護(関節リウマチ、SLE) 特徴:身体的・心理的・社会的問題 症状:発熱、レイノー症状、皮膚症状、間接・筋肉症状 検査:血液検査、X線、尿検査など 治療:薬物療法(ステロイド・免疫抑制剤)			講義	
11-14	4. 腎・泌尿器障害を持つ対象の看護 1) 腎・泌尿器障害をもつ対象の特徴とその看護 (1)身体的問題 (2)心理・社会的問題 2) 症状に対する看護 (1)排尿障害 (2)浮腫 (3)高血圧 3) 検査を受ける対象の看護 (1)尿検査 (2)腎生検 (3)造影検査 4) 治療・処置を受ける対象の看護 (1)透析療法を受ける対象の看護 (2)カテーテル留置を受ける対象の看護 (3)腎移植を受ける対象の看護 5) 疾患をもつ対象の看護 (1)腎不全 (2)腎炎 (3)腎・尿路結石 (4)前立腺肥大症 (5)前立腺癌・膀胱癌			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[4][6][8][11], 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅲ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 回復過程において障害への適応と社会復帰を目指す対象への看護を理解する。					
【目標】 1. 脳神経機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 2. 運動機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。 3. 生殖機能障害をもつ対象の特徴と問題をとらえ、その看護の方法を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護			講義	
2	脳神経機能障害の症状に対する対象の看護			講義	
3	脳神経機能障害で検査・治療・処置を受ける対象の看護			講義	
4	脳神経疾患を持つ対象の看護①(脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患、神経疾患)			講義	
5	脳神経疾患を持つ対象の看護②(脳腫瘍、頭部外傷、脊髄疾患、神経疾患)			講義	
6	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護もつ対象のリハビリテーションの実際①			講義	
7	脳神経機能障害を持つ対象の特徴と看護もつ対象のリハビリテーションの実際②			講義	
8	運動機能障害を持つ対象の理解			講義	
9	運動機能障害の症状に対する看護			講義	
10	運動機能障害で検査を受ける対象の看護			講義	
11	運動機能障害で治療・処置を受ける対象の看護			講義	
12	運動機能疾患を持つ対象の看護			講義	
13	生殖機能障害を持つ対象理解と検査時の看護			講義	
14	生殖機能障害を持つ対象の看護			講義	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:成人看護学[7][8][9][10], 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人看護学方法論Ⅳ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】					
紙上事例による看護過程の展開を通して、健康障害をきたした成人への看護を実践するための具体的な看護実践能力を身につける。					
【目標】					
1. 成人期にある患者の全体像の捉え方、アセスメントの方法を理解する。					
2. 問題解決的アプローチの展開方法を身につける。					
3. 教育的関わり(学習支援)の指導媒体を作成することができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1 2-7	1. 慢性期看護過程 1)慢性期看護過程ガイダンス (1)慢性期看護過程の展開の視点 (2)PES方式について (3)問題解決的アプローチについて (4)全体関連図について (5)教育的関わり(学習支援)・指導媒体について 2)個人ワーク 3)グループワーク 4)看護過程発表・まとめ			講義 演習	
8 9-15	2. 急性期看護過程 1)急性期看護過程ガイダンス (1)急性期看護過程の展開の視点 (2)経過観察記録用紙、24時間経過表 (3)退院支援 2)個人ワーク 3)グループワーク 4)看護過程発表・まとめ			講義 演習	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> ・系統看護学講座:成人看護学[4][6][8][11], 医学書院 ・新体系 看護学全書経過別成人看護学② 周術期看護 メヂカルフレンド社 ・周術期看護学習ワークブック メヂカルフレンド社 				<ul style="list-style-type: none"> ・課題レポート(個人・グループワーク) ・発表内容、態度、出欠席 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・演習・交流	
講義の目的と目標					
【目的】 老年看護の目的と意義を理解し、加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化や特徴を理解する。また、高齢者の社会生活を支える家族や、保健医療福祉の動向と仕組みを学び、老年看護の役割を理解する。					
【目標】 1. 加齢に伴う身体的・精神的・社会的機能の変化について説明できる。 2. 高齢者のライフステージにおける特徴と課題について説明できる。 3. 高齢者の身体的特徴に対するフィジカルアセスメント能力を養うことができる。 4. 高齢者の加齢に伴う変化を理解し、高齢者との交流を通して高齢者の健康保持・増進に関わりをもつことが出来る。 5. 高齢者の生活を取り巻く社会環境や保健医療福祉のしくみについて知ることが出来る。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	高齢者の理解(老いとは、老年看護の変遷、高齢者の時代背景)			講義	事前練習 準備
2	高齢者の生活(発達課題、ライフステージ、社会生活)			講義	
3	老化の身体的特徴①(老化の要因、原因)			講義	
4	老化の身体的特徴②			講義	
5	老化の身体的特徴③			講義	
6	高齢者体験①			演習	
7	高齢者体験②			演習	
8	加齢と心・高齢者の性			講義	
9	高齢者の理解①(高齢者交流)			交流	
10	高齢者の理解②(高齢者交流)			交流	
11	高齢者の現状、家族、暮らし			講義	
12	高齢社会における保健医療福祉、介護保険制度			講義	
13	高齢者の権利擁護(差別、虐待、身体拘束)			講義	
14	老年看護のなりたち(目標と役割、倫理)			講義	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:老年看護学, 医学書院 ・系統看護学講座:老年看護学-病態・疾患論-, 医学書院				・筆記試験 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社 ・老年看護技術、ヌーヴェルヒロカワ。					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 高齢者の健康障害が日常生活活動動作に及ぼす影響について学び、その問題を解決もしくは生活への影響を最小限にするための基本的な援助や看護の基本を習得する。高齢者に特徴的な疾患に対する看護アセスメント能力を養い、高齢者およびその家族に対する看護ケアやリハビリテーションの必要性を理解する。					
【目標】					
1. 加齢に伴う健康障害と生活への影響を理解する。					
2. 高齢者の代表的な疾患に対する看護のアセスメント、看護援助について学ぶ					
3. 排泄方法と栄養投与の方法について、演習を通して看護実践能力を身に付ける					
4. 生活障害、健康障害に応じてのアセスメントの視点と看護援助について理解する					
5. 高齢者に対するリハビリテーション看護の目的と方法を理解する					
6. 高齢者のADL、QOLを維持、向上のための看護の視点について学び援助ができる					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 高齢者の健康と生活を支える看護			講義	
2	1)コミュニケーション障害への援助				
3	(1)コミュニケーションの視点と方法 認知症・認知障害への援助				
4	(2)視覚・聴覚障害への援助 白内障・緑内障・黄斑変性症・難聴等				
5	2)排泄障害への援助				
6-7	(1)尿失禁 過活動膀胱等の排尿障害				
8	(2)便秘・下痢 ①原因と機序 ②排便と腹部マッサージ(方法と留意点)				
9	3)清潔への援助				
10	(1)口腔ケア (2)スキンケア・フットケア (3)褥瘡予防				
11	4)栄養障害への援助				
12	(1)摂食動作 ①食欲不振・脱水 ②咀嚼・嚥下障害				
13	(2)経管栄養(経鼻・胃瘻)への援助				
14	①経鼻栄養チューブの選択方法、挿入方法、留意点				
15	②経管栄養法による流動食の注入方法、留意点				
10	2. 高齢者に特有な疾患と看護			講義	
11	1)運動器・神経機能障害をもつ高齢者の看護			講義	
12	(1)大腿骨警部骨折・胸腰椎圧迫骨折			講義	
13	(2)パーキンソン病・クロイツフェルト・ヤコブ病			講義	
14	2)脳血管・循環・呼吸器障害をもつ高齢者の看護			講義	
15	(1)脳梗塞 (2)心不全 (3)誤嚥性肺炎			講義	
16	3)認知機能に障害をもつ高齢者の看護			講義	
17	(1)アルツハイマー型認知症 (2)レビー小体型認知症 (3)血管性認知症			講義	
18	4)感染症・皮膚疾患を持つ高齢者の看護			講義	
19	3. 高齢者の健康段階に応じた看護			講義	
20	1)リハビリテーションを受ける高齢者の看護			講義	
21	(1)リハビリ看護・アクティビティケア			講義	
22	まとめ・筆記試験			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医歯薬出版 高齢者の看護技術				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社					
・老年看護技術, ヌーヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
老年看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 老年看護の実践者として看護過程の展開ができる。					
【目標】 1. 紙上事例を通して、老年期にある対象の健康上の問題を理解し、看護過程の展開ができる。 2. 紙上事例のロールプレイを通して、保健指導に対する看護実践能力を養うことができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-3	1. 高齢者を対象とした看護過程 1) 高齢者の看護過程 ・具体的事例を通して ・情報収集の仕方(全体像の捉え方) ・アセスメントの視点 高齢者の看護過程に必要な視点 (検査値、加齢現象の捉え方等) ・問題抽出の仕方と優先順位の付け方 ・看護計画立案と修正の仕方			講義	
4-13	2) 看護過程(紙上事例展開) (1) 大腿部警部骨折の高齢者の事例 (2) 脳血管障害の高齢者の看護			演習	
14-15	3) ロールプレイ(教育支援)			演習	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 老年看護学 老年看護病態・疾患論 医歯薬出版 高齢者の看護技術 ・医学書院 生活機能からみた老年看護学過程				・課題レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・新体系看護学全書:第29巻 老年看護学②健康障害をもつ高齢者の看護 メジカルフレンド社 ・老年看護技術, ヌーヴェルヒロカワ					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学概論		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表・実習	
講義の目的と目標					
【目的】 子どもの特徴と子どもを取り巻く環境について学び、小児看護の対象を理解する。					
【目標】					
1. 小児各期の成長発達段階を理解する。					
2. 小児各期の日常生活と援助方法を理解する。					
3. 子どもの遊びの意義と特徴を理解する。					
4. 子どもの人権について考えを深め、子ども観を養う。					
5. 子どもを取り巻く社会について理解する。					
6. 小児の栄養について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	小児看護における発達論			講義	
2	新生児の成長発達と養育			講義	
3	乳児の成長発達と養育			講義	
4	幼児の成長発達と養育			講義	
5	新生児から幼児までの成長・発達のみとめ			個人ワーク	
6	学童・思春期の成長と養育			講義	
7	子どもにとっての遊び			講義	
8	手作り名札兼おもちゃ①			発表	
9	手作り名札兼おもちゃ②			発表	
10	これからの小児看護学①(子どもの権利、統計、事故)			講義	
11	これからの小児看護学②(児童福祉、学校保健、予防接種)			講義	
12	小児の栄養			講義	
13	幼児食の実際①			実習	
14	幼児食の実際②			実習	
15	試験			テスト	
16					
17					
18					
19					
20					
21					
22					
23					
24					
25					
26					
27					
28					
29					
30					
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:小児看護学[1], 医学書院				・筆記試験 ・手作り名札 ・レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論 I		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 健康障害や入院が小児や家族に及ぼす影響について学ぶ。 小児の主な疾患・傷害を理解し、看護に必要な知識・技術を学ぶ。					
【目標】 1. 健康問題が子どもと家族に及ぼす影響について理解する 2. さまざまな状況にある子どもと家族の看護を理解する 3. 子どもの成長発達段階に応じた看護を理解する 4. 小児看護に必要な看護技術を理解する					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 健康問題をもつ子ども・家族への看護 1) 病気や入院が子どもと家族に与える影響 ・入院中の子どもと家族の看護 ・健康問題をもつ家族の看護			講義	
2	2) 外来・検査・処置を受ける子どもと家族の家族の看護			講義	
3	3) 慢性、在宅療養、障害の子どもと家族の看護			講義	
4	2. 小児のフィジカルアセスメント 1) 小児のフィジカルアセスメント			講義	
5	3. 小児の疾患と看護 1) 循環器疾患の子どもと家族の看護			講義	
6	2) 呼吸器疾患の子どもと家族の看護			講義	
7	3) 先天的な問題をもつ子どもと家族の看護			講義	
8	4) 代謝・免疫・アレルギー性疾患の子どもと家族の看護			講義	
9	5) 神経疾患の子どもと家族の看護			講義	
10	6) 腎・泌尿器疾患の子どもと家族の看護			講義	
11	7) 消化器疾患の子どもと家族の看護			講義	
12	8) 感染症の子どもと家族の看護			講義	
13	9) 血液疾患の子どもと家族の看護			講義	
14	10) 低出生体重児、ハイリスク新生児と家族の看護			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座：小児看護学[1][2], 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標 【目的】 小児看護事例を通して看護過程を学ぶ。					
【目標】 1. 事例を通して全体像の捉え方、アセスメントの方法を理解する。 2. 発達段階に合わせたプレパレーションツールを作成することができる。 3. 小児の看護過程を理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	看護過程ガイダンス			講義	
2	看護過程①(アセスメント)			個人ワーク	
3	看護過程②(アセスメント)			個人ワーク	
4	看護過程③(展開)			GW	
5	看護過程④(展開)			GW	
6	看護過程⑤(展開)			GW	
7	医療を受ける子どもの権利、プレパレーション			講義	
8	プレパレーション①(作成)			個人ワーク	
9	プレパレーション②(作成)			個人ワーク	
10	プレパレーション③			発表	
11	看護過程⑥(準備)			GW	
12	看護過程⑦			発表	
13	看護過程⑧			発表	
14	看護過程⑨			発表	
15	看護過程のまとめ			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座:小児看護学[1][2], 医学書院 ・小児看護技術-子どもの家族の力を引き出す技-, 南江堂				・プレパレーションツール ・レポート ・看護過程発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学概論		専任教員		看護教員	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		有無	有
1年次／後期		20時間／1単位／10回		講義の種類	
				講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 女性を取り巻く環境について学び、母性看護の対象及び役割を理解する。					
【目標】 1. 性の意義を理解し、生命の尊厳と人間の尊重について考えを深める。 2. 母性看護の対象を女性のライフサイクルの変化と家族のライフサイクルとの関連を通して理解できる。 3. 女性を取り巻く環境の変化及び特徴と、それらが母性の役割に及ぼす影響について理解できる。 4. 生命誕生を援助する看護者としての倫理観を養う。 5. 母子保健医療福祉チームの一員として看護者の役割が理解できる。 6. 自己の母性・父性観を深める。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1-2	1. 母性看護の基盤となる概念 1) セクシュアリティ (1) セクシュアリティ(人間の性) (2) 性のもつ意義 (3) 性の分化と胎児期における生殖器の発育 ① 性分化のメカニズム ② 身体上の性と社会性 ③ 性分化異常 (4) 生殖器の形態・機能 ① 女性の外生殖器・内生殖器 ② 男性生殖器 ③ 女性生殖器の機能 (5) 性行動・性反応の特徴 (6) 性の多様性 ① 障害者の性 ② 性同一性障害 ③ 同性愛 (7) セクシュアリティの発達と課題 (8) 乳幼児期 ② 学童期 ③ 思春期 ④ 成熟期 ⑤ 更年期 ⑥ 老年期 (9) 女性のライフステージ各期における看護 ① 各ライフサイクルにおける女性の健康と看護の必要性			講義	
3	2) リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (1) リプロダクティブ・ヘルス/ライツとは (2) 女性とリプロダクティブ・ヘルス/ライツの課題 3) ヘルスプロモーション (1) ヘルスプロモーションとは (2) 女性の生涯にわたる健康教育 (3) ヘルスプロモーション活動における協働			講義	
4	2. 母性の対象理解 1) 母性とは (1) 親になることと母性 (2) 母性の身体的特性 (3) 母性の心理・社会的特性 (4) 母性の発達・成熟・継承 ① 女性性の発達 ② 母性・父性と親性の発達 (5) 母性看護における母性 2) 母子関係と家族発達 (1) 愛着・母子相互作用と母子関係形成 (2) 家族の発達課題 3) 女性のライフサイクルと家族 (1) 現代女性のライフサイクル (2) 家族の発達段階と家族看護			講義	
5	3. 母性看護の概念 1) 母性看護のあり方 (1) 母性看護とは (2) 母性看護のあり方の本質と特質 (3) 母性看護の課題と展望 2) 母性看護における倫理 (1) 生命倫理と看護倫理 (2) 看護における倫理的意思決定 3) 母性看護における安全・事故防止 4) 母性看護における生命倫理的諸問題 (1) 高度生殖医療・不妊治療 (2) 出生前診断 (3) 代理母 (4) 人工妊娠中絶 (5) ハイリスク児の医療			講義	
6	4. 母性看護の対象を取り巻く社会の変遷と現状 1) 母性看護の歴史の変遷と現状 (1) 母性看護の変遷 (2) 母性看護の場と職種 2) 母性看護の対象を取り巻く環境 (1) 家族 (2) 地域社会 (3) 生物学的環境 (4) 社会文化的環境			講義	
7-8 9	5. リプロダクティブ・ヘルスケア 1) 人工妊娠中絶と看護 (1) 中絶の法的根拠と近年の傾向 (2) 人工妊娠中絶術とその影響 (3) 中絶を受ける女性の心理とケア 2) 喫煙女性の健康と看護 (1) 喫煙の動向 (2) 喫煙の健康への影響 (3) 禁煙支援 (4) 喫煙予防への取り組み 3) 性暴力を受けた女性に対する看護 (1) 性暴力と社会 (2) 性暴力被害の実態と社会の対応 (3) 性暴力を受けた女性への援助 4) 児童虐待と看護 (1) 児童虐待の実態 (2) 児童虐待の対策 (3) 児童虐待の予防 5) 国際化社会と看護 (1) 母子保健の国際化			講義 演習	
10	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学概論, 母性看護学[1] 医学書院				・筆記試験 ・課題レポート、グループワーク	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		医師・看護教員	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・演習	
講義の目的と目標 【目的】 周産期の生理的特徴を理解し、周産期における健康保持・増進及び健康問題に関する援助方法を習得する。					
【目標】 1. 妊婦・分娩・産褥期および新生児の正常な生理的变化が理解できる。 2. 妊婦・分娩・褥婦・新生児およびその家族の心理的・社会的特徴が理解できる。 3. 妊娠・分娩・産褥期および新生児期の援助方法が習得できる。 4. 周産期において健康問題をかかえる人々への援助方法が理解できる。 5. 母子保健医療福祉における社会資源について学び、その活用方法が理解できる。 6. 自己の母性・父性意識を高めることができる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 妊産期における看護 1) 妊産期の身体的特性 (1) 妊婦の生理 (2) 胎児の発育とその整理 (3) 母体の生理的变化 2) 妊産期の心理・社会的特性 (1) 妊婦の心理 ①身体的・社会的変化に伴う心理 ②妊娠経過に伴う不安や葛藤 ③出産・育児への準備の心理 (2) 妊婦と家族および社会 ①家族の役割変化 ②社会との関係 ③就労している妊婦			講義	
2-3	3) 妊婦と胎児のアセスメント (1) 妊娠経過 (2) 胎児の発育と健康所帯 (3) 妊婦健康診査 ①子宮成長測定 ②腹囲測定 ③レオポルド触診法 ④胎心音の聴取 ⑤尿検査 ⑥浮腫の見方 ⑦骨盤外測定 ⑧NST(ノンストレステスト) (4) 妊婦の日常生活とセルフケア (5) 妊婦のマイナートラブルと援助 (6) 母子保健事業 (7) 親になるための準備教育 ①分娩準備教育 ②パースプラン ③育児準備・家族役割調整のための保健相談 ④胎生期の母子相互作用			講義	
4-5	2. 分娩期における看護 1) 分娩の要素および分娩機序 2) 分娩経過 (1) 分娩進行と産婦の身体的変化 (2) 産痛の緩和 (3) 胎児に及ぼす影響 (4) 産婦の心理・社会的変化 3) 産婦・胎児、家族のアセスメント (1) 産婦と胎児の健康状態のアセスメント (2) 産婦と家族の心理・社会面のアセスメント 4) 産婦と家族の看護 (1) 産婦と家族のニーズ (2) 安全・安楽な分娩への看護 (3) よい出産に向けての看護 5) 基本的ニーズに関する看護 6) 分娩期の看護 (1) 分娩第Ⅰ期の看護 ①陣痛の測定(分娩監視装置) ②産痛の緩和法 ③呼吸法・リラクセス法 (2) 分娩第Ⅱ期の看護 (3) 分娩第Ⅲ・Ⅳ期の看護 ①一般状態の観察 ②出血量の測定 ③胎盤計測 7) 母子相互作用 (1) 妊産期の母親・父親の情緒的变化 (2) 出産が母親・父親に与える影響 (3) 新生児の知覚 (4) 母子相互作用・早期母子接触 (5) 母子関係障害			講義	
6-7	3. 産褥期における看護 1) 産褥経過 (1) 産褥期の身体的変化 ①進行性変化 ②退行性変化 (2) 産褥期の心理・社会的変化 (3) 社会的支援 2) 褥婦のアセスメント (1) 産褥経過 (2) 褥婦の健康状態 3) 褥婦と家族の看護(セルフケアを高める援助) (1) 身体機能回復および進行性変化 (2) 児との関係確立へ向けて (3) 母乳栄養確立へ向けて ①乳頭・乳輪マッサージ (4) 育児技術に関わる援助 ①抱き方 ②寝かせ方 ③おむつ交換 ④衣類の着脱 ⑤ボトル授乳 ⑥沐浴 (5) 日常生活とセルフケア(退院支援)			講義	
8	2) 褥婦のアセスメント (1) 産褥経過 (2) 褥婦の健康状態 3) 褥婦と家族の看護(セルフケアを高める援助) (1) 身体機能回復および進行性変化 (2) 児との関係確立へ向けて (3) 母乳栄養確立へ向けて ①乳頭・乳輪マッサージ (4) 育児技術に関わる援助 ①抱き方 ②寝かせ方 ③おむつ交換 ④衣類の着脱 ⑤ボトル授乳 ⑥沐浴 (5) 日常生活とセルフケア(退院支援)			講義	
9-10	4. 新生児期における看護 1) 新生児期の生理的变化と診断・検査 (1) アプガースコア (2) 循環、呼吸、体温、体液バランス (3) 消化吸収と栄養、ビリルビン代謝 (4) 原子反射 (5) 身体的特徴 ①生理的体重減少 ②新生児中毒性紅斑 ③臍帯脱落 ④臍乳、帯下、月経 2) 新生児のアセスメント 3) 新生児期の看護技術 (1) 臍処置 (2) 点眼 (3) バイタルサイン (4) 身体計測 (5) 沐浴 ①身長 ②体重 ③頭囲 ④胸囲 (6) ビタミンKの投与 (7) 新生児マスクリーニング (8) 新生児聴カスクリーニング 4) 新生児期の看護 (1) 新生児とのコミュニケーション (2) 子宮外生活適応への援助(ティベロップメンタルケア) (3) 感染予防			講義	
11	2) 新生児のアセスメント 3) 新生児期の看護技術 (1) 臍処置 (2) 点眼 (3) バイタルサイン (4) 身体計測 (5) 沐浴 ①身長 ②体重 ③頭囲 ④胸囲 (6) ビタミンKの投与 (7) 新生児マスクリーニング (8) 新生児聴カスクリーニング 4) 新生児期の看護 (1) 新生児とのコミュニケーション (2) 子宮外生活適応への援助(ティベロップメンタルケア) (3) 感染予防			演習	
12-13	5. ハイリスクな状況にある人々と家族の看護 1) 妊娠の異常と看護 (1) 切迫流・早産 (2) 妊娠高血圧症候群 (3) 妊娠性糖尿病 (4) 常位胎盤早期剥離 (5) 前置胎盤 2) 分娩の異常と看護 (1) 胎児機能不全 (2) 弛緩不全 (3) 軟産道損傷 (4) 母子分離 3) 産褥の異常と看護 (1) 子宮復古不全 (2) 貧血 (3) 乳腺炎 (4) 産褥熱 (5) 産後うつ (6) 感染症(ATL・AIDS・B型肝炎) 4) 新生児の異常と看護 (1) 新生児仮死 (2) 低出生体重児 (3) 高ビリルビン血症 (4) 先天性異常・障害 (5) 分娩外傷 5) 不妊治療と看護 (1) 子どもを産み育てること (2) 遺伝相談 (3) 不妊治療と看護			講義	
14	5) 不妊治療と看護 (1) 子どもを産み育てること (2) 遺伝相談 (3) 不妊治療と看護			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト ・系統看護学講座: 専門Ⅱ-母性看護学各論-母性看護学[2], 医学書院 ・カラー写真で学ぶ周産期の看護技術, 医歯薬出版, 第2版				評価方法 ・筆記試験 ・課題レポート ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
母性看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
<p>講義の目的と目標</p> <p>【目的】 紙上事例による看護過程の展開を通して、母性看護の具体的な援助方法を習得すると共に、健康に働きかける看護のあり方を学ぶ。</p> <p>【目標】 1. 紙上事例を用い、対象に応じた個別的な看護過程の展開方法を身につける。 2. シミュレーション学習を通じ、母性看護における基礎的知識・技術・態度の統合ができる。</p>					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	科目ガイダンス			講義・個人ワーク	
2	看護過程初期計画の立案①(関連図、看護計画作成「情報収集とアセスメント」)			個人ワーク	
3	看護過程初期計画の立案②(関連図、看護計画作成)			個人ワーク	
4	看護過程の展開①(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
5	看護過程の展開②(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
6	看護過程の展開③(優先順位、目標設定、指導計画作成)			GW	
7	看護過程の展開①(教育支援ロールプレイ発表)			発表	
8	看護過程の展開②(教育支援ロールプレイ発表)			発表	
9	統合シミュレーション学習①(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
10	統合シミュレーション学習②(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
11	統合シミュレーション学習③(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
12	統合シミュレーション学習④(妊娠期・分娩期・産褥期・新生児期におけるアセスメント)			GW	
13	妊婦・分娩・産褥・新生児看護技術①			発表	
14	妊婦・分娩・産褥・新生児看護技術②			発表	
15	看護過程の展開まとめ			講義	
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座: 専門Ⅱ-母性看護学各論-母性看護学[2], 医学書院 ・カラー写真で学ぶ周産期の看護技術 第2版, 医歯薬出版				・レポート ・発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学概論		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
1年次／後期		30時間／1単位／15回		講義	
講義の目的と目標					
【目的】 精神看護学の位置づけ、精神看護の意義、目的、対象、機能と役割を学ぶ。 心の構造・働きや発達を理解し、精神の健康の保持・増進のための支援法を学ぶ。 わが国の精神保健福祉制度を学び、人権・福祉・精神保健・地域社会との連携のあり方を学ぶ。					
【目標】 1. 精神看護の目的・意義、対象、機能と役割を理解する。 2. 人間の心を見る視点、そのはたらきやストレスの影響、心の防衛機能、その危機と回復など、心のありようを理解する。 3. 人間の心の発達過程を、代表的な発達理論から理解する。 4. ライフサイクルにおける精神の健康と、各期の特徴と危機を理解する。 5. 現代社会における心のありよう、親や子どもの置かれている状況を理解し、その問題点を考える。 6. 精神保健の歴史の変遷から精神に障害を持つ人々の歴史的処遇、法制度を知り、精神障害を持つ人の生きにくさを理解する。 7. リエゾン精神看護の具体的な活動を知り、看護師のメンタルヘルス支援について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	「精神看護学」で学ぶこと			講義	
2	暮らしの場と精神(心)の健康①(学校・職場・仕事と精神の健康)			講義	
3	暮らしの場と精神(心)の健康②(地域における生活と精神の健康)			講義	
4	精神(心)の捉え方①(脳の構造と認知機能)			講義	
5	精神(心)の捉え方②(精神の構造と働き)			講義	
6	精神(心)の発達に関する主要な考え方①(発達理論・愛着理論)			講義	
7	精神(心)の発達に関する主要な考え方②(マズローの欲求5段階・認知発達理論)			講義	
8	精神(心)の危機状況と精神保健			講義	
9	家族と精神(心)の健康			講義	
10	現代社会と精神(心)の健康①(現代社会の特徴)			講義	
11	現代社会と精神(心)の健康②(精神保健の主な問題)			講義	
12	精神医療の歴史			講義	
13	精神障害をもつ人を守る法・制度			講義	
14	精神保健福祉法における医療の形態と患者の処置			講義	
15	試験			テスト	
使用テキスト				評価方法	
・新体系看護学全書:精神看護学①-精神看護学概論-精神保健-,メデカルフレンド社 ・系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-,医学書院 ・系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-,医学書院				・筆記試験 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・学生のための精神看護学,医学書院 ・情緒発達と看護の基本,メディカ出版 ・精神看護学ノート,医学書院 ・国民衛生の動向					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅰ		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
				有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／講義回数			講義の種類	
2年次／前期	30時間／1単位／15回			講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 精神に障害のある対象の精神症状や状態像、治療法を学び、その対象が体験している世界を知り、精神障害者への理解を深め、対象とその家族への援助の視点を学ぶ。					
【目標】					
1. 精神障害をもつ人の生活のしづらさに共感でき、精神の障害を医学的側面、心理的側面、社会的側面から理解できる。					
2. 精神症状や状態像によってもたらされる生活行動のリズムの乱れや、生活のしづらさを理解し必要な看護が理解できる。					
3. 精神障害をもつ対象の治療的環境と、その環境の特性を理解し看護の方法が理解できる。					
4. 精神障害をもつ人をケアする家族への影響と、その支援について理解できる。					
5. 司法精神医療の位置づけについて知り、司法精神看護の役割について理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 精神(心)を病むということ 1)「精神(心)を病む」とはどういうことか 2)精神障害とスティグマ 3)精神障害をもつ人はどのようなことを経験し感じているか 4)精神障害とともに生きる			講義	
2-4	2. 精神障害をもつ人の抱える症状と看護 1)精神障害をもつ人の抱える症状 (1)不安状態にある患者の看護 (2)抑うつ状態にある患者の看護 (3)幻覚・妄想状態にある患者の看護 (4)精神運動興奮状態にある患者の看護 (5)躁状態にある患者の看護 (6)脅迫症状のある患者の看護 (7)昏迷状態にある患者の看護 (8)拒否や拒絶状態にある患者の看護			演習	
5-10	3. 精神疾患/障害をもつ患者への看護 1)統合失調症の患者の看護(事例)・急性期・慢性期 2)気分(感情)障害の患者の看護(事例) 3)嗜癖(アルコール依存症・薬物依存症等)のある患者の看護 4)人格障害、摂食障害、ストレス関連障害の看護			講義	
11	4. 精神障害をもつ人をケアする家族への支援 1)精神障害の家族への影響 2)家族への支援 (1)家族心理教育			講義	
12-13	5. 精神科病棟という治療的環境と患者の生活 1)精神科病棟という治療的環境と患者の生活 (1)精神障害をもつ人にとっての入院の意味 (2)治療的環境の整備 (3)事故防止・安全管理と倫理的配慮			講義	
14	6. 司法精神医療と看護 1)司法精神医療と司法精神看護 2)触法精神障害者の処遇としての司法精神医療 3)事故防止・安全管理と倫理的配慮			講義	
15	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 新体系看護学全書:精神看護学②-精神障害を持つ人の看護-メヂカルフレンド社 系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-, 医学書院 系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> 筆記試験 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 学生のための精神看護学, 医学書院 生活障害と看護の実践, メディカ出版 精神看護学ノート, 医学書院 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学方法論Ⅱ		専任教員		看護教員	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
2年次／後期		30時間／1単位／15回		講義・ワーク・発表	
講義の目的と目標					
【目的】 精神看護の基本を学び、治療的人間関係を深めるための精神看護実践能力を身につける。					
【目標】 1. 精神看護で活用する技法を理解する。 2. 援助的な対人関係を学び、患者-看護師関係の発展過程が理解できる。 3. 精神科看護のコミュニケーション技術を学び、看護場面での活用ができる。 4. 精神障害をもつ対象への看護展開方法が理解できる。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	精神障害をもつ人への看護援助の展開①			講義・GW	
2	精神障害をもつ人への看護援助の展開②			講義・GW	
3	看護過程①(統合失調症患者/双極性障害患者)			個人ワーク	
4	看護過程②			個人ワーク	
5	看護過程③			個人ワーク	
6	看護過程④			発表	
7	看護過程⑤			GW	
8	看護過程⑥			GW	
9	看護過程⑦			GW	
10	看護過程⑧			GW	
11	看護過程⑨			GW	
12	看護過程⑩			GW	
13	看護過程⑪			発表	
14	看護過程⑫			発表	
15	看護過程⑬			発表	
	看護過程⑭			発表	
使用テキスト				評価方法	
<ul style="list-style-type: none"> 新体系看護学全書:精神看護学②-精神障害を持つ人の看護-メヂカルフレンド社 系統看護学講座:精神看護学①-精神看護の基礎-, 医学書院 系統看護学講座:精神看護学②-精神看護の展開-, 医学書院 				<ul style="list-style-type: none"> レポート 発表 	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
<ul style="list-style-type: none"> 学生のための精神看護学, 医学書院 生活障害と看護の実践, メディカ出版 精神看護学ノート, 医学書院 					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護活動と管理		非常勤講師・専任教員		看護師・看護教員	
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		有無	有
3年次／前期		20時間／1単位／10回		講義の種類	
				講義	
講義の目的と目標					
【目的】 質の高い看護を提供するためのマネジメントの目的や方法を学習し、看護をマネジメントできる基礎的能力を養う。					
【目標】 1. 看護の対象となる人々に最も良質で効果的な看護を提供するためのしくみについて学習する 2. 病院の組織や機能などの基本的な成り立ちについて学び、看護部門の位置づけを理解する。 3. チーム医療における多職種との連携・協働について理解する。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 看護とマネジメント 1) 看護管理学とは 2) 看護におけるマネジメント 3) 看護におけるマネジメントの考え方の変遷			講義	
2	2. 看護ケアのマネジメント 1) 看護ケアのマネジメントと看護職の機能 2) 患者の権利の尊重 3) 安全管理 4) 日常業務のマネジメント			講義	
3-4	3. 看護職のキャリアマネジメント 1) 看護職のキャリア形成 2) タイムマネジメント・ストレスマネジメント			講義	
	4. 看護サービスのマネジメント 1) 看護サービスのマネジメント 2) 組織達成のマネジメント 3) 看護サービス提供のしくみづくり 4) 人材のマネジメント 5) 施設・設備環境のマネジメント 6) 物品のマネジメント 7) 情報のマネジメント				
5	5. マネジメントに必要な知識と技術 1) マネジメントプロセス 2) リーダーシップとマネジメント 3) 組織の調整・集団 組織文化 動機づけ エンパワメント コンフリクト 変化と変革			講義	
6-7	6. チーム医療 1) チーム医療とは 2) チーム医療に必要な機能 (1) 連携・協働 (2) コミュニケーション 3) 多職種との連携・協働 4) 事例: 問題点の明確化			講義	
8-9	7. 感染管理 1) スタンダードプリコーションに基づいた感染管理 2) 感染管理に関する看護技術 (1) 基本的な感染防御の技術 (2) 療養環境整備 (3) ケアと感染防止 (4) 医療行為を行うときの感染防御に関する技術 (5) 医療廃棄物の対処			講義	
10	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・看護の統合と実践① 看護管理 医学書院				・筆記試験 ・授業への出席・参加状況・GW ・発表 ★60点未満は、再試験	
参考図書					
・特になし					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
医療安全		非常勤講師		看護師	
				有無	有
年次/開講時期		時間数/単位数/講義回数		講義の種類	
2年次/後期		20時間/1単位/10回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 医療安全の視点から、安全な医療・看護を提供する意義と役割について理解を深め、倫理的判断能力・リスクマネジメント能力を養う。					
【目標】 1. 医療安全の意義について学び、安全な医療・看護の実践について理解できる。 2. 医療事故防止に関する、看護師の責任と倫理的判断能力を身につけることができる。 3. 医療事故予防のための医療と看護システムについて理解できる。 4. 自己分析手法を学び、医療事故事例の分析・シミュレーションを通してリスクマネジメント能力を養う。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 医療事故予防および安全の考え方 1) 医療事故の概念 2) 人間の行動とヒューマンエラー (1) ヒューマンエラーを起こすメカニズム (2) メタ認知-事故コントロール、自己モニタリングについて			講義	
2	2. 医療事故に関する看護職の責務と倫理 1) 医療事故予防に関する看護職の責任 ・患者の安全の確保、法的責任・保助看法による業務範囲				
3	3. 医療事故予防のための医療と看護システム 1) リスクマネジメントの考え方 2) システム全体としての安全管理 (1) マニュアルの整備と遵守 (2) 医療機器の整備 (3) 労働安全衛生管理と適正な人事配置 (4) 医療事故予防の組織的取り組み (5) 安全文化の醸成 ・何でも言い合える関係、話し合える職場環境 ・アサーティブコミュニケーション			講義	
3-4	3) 医療事故予防の根幹となる看護倫理				
4	4. 医療事故分析 1) 事例から学ぶ手法 (1) 自己につながる体験の分析と共有化 (2) 事故事例から事実を正しくとらえる (3) 時系列事象関連図 (4) p-mSHELモデル (5) 4M4E分析法の活用			講義	
5	2) 医療事故と事故後の対応 (1) 医療事故の種類と割合 転落転倒事故、与薬事故など (2) インシデント・アクシデントの意味・書き方 (3) 事故発生後の対応 (4) 事故調査のあり方(事故の事例把握、事例検討)				
5	5. 医療事故予防と看護実践 1) 危険の情報収集 (1) エラーの要因となるものの情報収集と分析、アセスメント (2) 危険の因子の査定・予測 (3) 危険を回避した看護実践 (4) リスクコミュニケーションについて			演習	
6	6. 事例分析 1) 転倒・転落の事故事例分析 (1) 事故の背後要因・関連 ・時系列事象関連図を活用し、背後要因を分析する (2) 事故の背後要因の分析と対策 ・p-mSHELモデルを活用する・事故の分析内容の共有			演習	
7-9	7. 事例の展開 1) 転倒転落のシミュレーション 2) リフレクション (1) 事故の原因分析 (2) 事故モニタリングと事故体験の意味づけ			演習	
10	まとめ・筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・系統看護学講座 統合分野 看護の統合と実践② 医療安全				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					
・嶋森好子: 医療安全とリスクマネジメント, ヌーベルヒロカワ ・川村治子: 医療安全ワークブック, 医学書院					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
災害看護・国際看護		非常勤講師		看護師	
				有無	有
年次／開講時期		時間数／単位数／講義回数		講義の種類	
3年次／前期		15時間／1単位／8回		講義・演習	
講義の目的と目標					
【目的】 看護活動における災害看護を理解し、国際的視野から看護について学ぶ。					
【目標】 1. 災害看護の概要を学び、災害医療における看護の役割を理解する。 2. 災害時に必要となる救急処置の基礎的知識を身につけ、災害看護活動の実際を学ぶ。 3. 国際的な医療・看護活動の仕組みや実際、グローバルな視点で健康課題を捉え看護の役割を学ぶ。					
講義数	講義内容			教育方法	備考(その他時間)
1	1. 災害医療とは 1) 災害医療の基礎知識 ・災害の定義と種類、健康障害・健康被害 ・災害サイクルと医療・看護支援活動 災害派遣チーム(DMAT) ・災害医療にかかわる医療制度 ・災害時の支援体制と医療制度 情報システムと職種間・組織間連携 ・国内救援活動の実際と課題			講義	
2	2. 災害看護の特徴 1) 災害看護の基礎知識 ・災害看護の定義と役割 災害看護の特徴				
3-5	3. 災害サイクルに応じた活動 1) 災害サイクル各期の看護 2) 災害時の精神的ケア 3) 災害時の看護技術 (1) トリアージ トリアージの基礎 模擬患者へのトリアージ (2) 応急処置の方法 ・外傷の手当(止血法等) (3) 被災者の安全な移送方法 ・搬送 ・移送 4) 自治体、実習施設による総合防災訓練の実際			講義 演習	
6	4. 国際看護の概要 1) グローバルヘルスと国際看護SDGs ・人間の安全保障、健康格差 2) 多様な文化と看護 ・異文化理解、看護の対象			講義	
7	5. 国際協力活動 1) 国際協力のしくみ、期間、役割 2) 国際協力活動を必要とする人々、地域、組織 3) 国際救援活動と看護			講義	
8	筆記試験				
使用テキスト				評価方法	
・ナースング・グラフィカ 看護の統合と実践③ 災害看護 メディカ出版 ・系統看護学講座 基礎看護学 看護学概論 医学書院				・筆記試験	
				★60点未満は、再試験	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学実習 I		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
1年次／前期	45時間／1単位／6日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 看護における活動の場、患者の療養環境を知り、患者とのコミュニケーションを図る。					
【目標】 1. 看護の場である病院および病棟の構造について理解できる。 2. 入院患者の生活環境が理解できる。 3. 人間関係形成のためのコミュニケーションを図ることができる。 4. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	学内での事前学習およびシミュレーション				
2	①病院オリエンテーション ②病院内見学 ③病棟オリエンテーション ④病棟内見学 ⑤病室内見学			実習	
3-5	①患者とのコミュニケーション ②患者の病床環境の観察 ③ベッドメイキング、環境整備 ④報告(3日目は病棟報告会)			実習	
6	学内での記録の整理および発表会(まとめ)				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学実習Ⅱ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
1年次／後期	45時間／1単位／6日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 健康障害により入院生活を余儀なくされている対象を理解し、日常生活の援助を実施する。					
【目標】 1. 意図的に、適切なコミュニケーションを図ることができる。 2. 対象の身体的、精神的、社会的側面の情報収集ができる。 3. 対象の安全・安楽に配慮して日常生活の援助を実施し、振り返り、評価できる。 4. 看護学生として適切な観察・記録・報告ができる。 5. 自主的に学ぶ行動ができる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	学内での事前学習およびシミュレーション				
2	①病棟オリエンテーション ②看護師シャドーイング ③受持ち患者の選定			実習	
3-5	①受持ち患者とのコミュニケーション ②情報収集 ③日常生活援助の見学 ④バイタルサイン測定・観察および日常生活援助の実施、報告 ⑤病棟報告会(4日目)			実習	
6	学内での記録の整理、学びの共有、面談の実施				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
基礎看護学実習Ⅲ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
<p>実習の目的と目標</p> <p>【目的】 基礎看護学で学んだ知識・技術・態度を統合し、看護過程展開の基本を習得する。</p> <p>【目標】</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 対象を総合的に理解し、看護問題を抽出できる。 2. 対象に必要な援助を計画し、実践及び評価できる。 3. 受け持ち患者に関わる職種を知り、看護の役割を理解できる。 4. 自主的に学ぶ行動ができる。 					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	#NAME?				
2	①病棟オリエンテーション ②看護師シャドーイング ③受持ち選定			実習	
3-5	①受持ち患者の情報収集と分析 ②日常生活援助の見学・実施			実習	
6	学内 ①情報の整理・分析 ②日常生活援助技術練習				
7	①日常生活援助の実施 ②不足情報の収集と分析 ③全体像の把握(統合) ④看護問題の明確化と優先順位の決定 ⑤看護計画の立案			実習	
8-10	①ケースカンファレンス ②看護計画に準じた看護援助の実施			実習	
11	①看護計画に準じた看護援助の実施 ②病棟反省会			実習	
12	学内での記録の整理、学びの共有、面談の実施				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護論実習 I		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
1年次／前期	45時間／1単位／6日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 地域で生活する人々の健康と暮らしを支える看護の基礎的能力を養う。					
【目標】 1. 地域包括支援センターの概要について理解する。 2. 人間関係形成のためのコミュニケーションを図ることができる。 3. 地域で生活する高齢者や支援を必要とする人々(対象者)の抱えるニーズを知る。 4. 介護予防事業へ参加し、地域の実情に応じた多様な支援について学ぶ。 5. 対象者の健康と暮らしに関わる職種を知り、看護の役割を考える。 6. 看護学生としての自覚と責任を持ち行動できる。					
【地域包括支援センター】					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	①地域包括支援センターの概要を知る ②職種の種類と役割を知る ③地域包括支援センターの業務を知る ④相談場面に参加する ⑤介護予防事業へ参加する ⑥ケア会議、地域の協力者の定例会に参加する ⑦介護予防講座に参加する			実習	
5	学内でのグループ討議およびまとめ				
6	学内での発表会				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護論実習Ⅱ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／後期	45時間／1単位／6日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 地域で暮らす人々が、多様な活動の場(社会参加)において、共に支え合い、成長しながら地域で共生していることを理解し、地域での看護の役割について学ぶ。					
【目標】 1. 多様な活動の場について理解できる。 2. 多様な活動の場を活用する人々の健康課題を理解しADL・QOLの維持向上に向けた援助ができる。 3. 多職種との連携を学び、継続看護の意義が理解できる。 4. 自主的に学ぶ行動ができる。					
【介護サービス事業所・障害福祉サービス事業所】					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	①事業所の概要を知る ②職種の種類と役割を知る ③事業所の業務を知る ④利用者の健康課題を踏まえ、コミュニケーションをとり特徴を知る ⑤利用者の残存機能を生かし、機能維持・向上に向けた援助ができる ⑥事業所の看護の実際を知る ⑦利用者の生活を支えている多職種の位置づけや役割を学ぶ			実習	
5	学内でのグループ討議およびまとめ				
6	学内での発表会				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
地域・在宅看護論実習Ⅲ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の役割・機能を理解し、在宅療養者のもつ療養上の課題を知り、療養者及び家族のQOL向上へ向けて看護者の果たす役割について学ぶ。					
【目標】 1. 訪問看護ステーション及び居宅介護支援事業所の組織・機能・活動の概略について理解できる。 2. 在宅療養者とその家族が持つ療養上の問題を把握し、QOL向上へ向けた個別的な在宅看護の展開方法を学ぶ。 3. 在宅療養者の健康問題の種類とレベルに合わせた保健医療福祉の連携と社会資源の活用方法が理解できる。 4. 在宅看護に必要な看護の責任・倫理的配慮が理解できる。					
【訪問看護ステーション】【居宅介護支援事業所】					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①訪問看護ステーションのオリエンテーション ②受け持ち療養者の選定 ③療養者とのコミュニケーション及び情報収集 ④訪問看護師と同行訪問し援助の見学または実践を行う			実習	
2-3	①行動計画の発表及び実施 ②同行訪問(見学または実践)・担当者とカンファレンス ③受け持ち療養者のアセスメント整理と次回訪問時のケア計画			実習	
4-6	①受け持ち療養者の看護計画の立案 ②受け持ち療養者の支援マップ作製 ③行動計画の発表及び実施 ④同行訪問(見学または実践) ⑤受け持ち療養者の看護過程の展開 ⑥ケースカンファレンス			実習	
7-9	①受け持ち療養者の看護計画の修正 ②4～5日目実習項目1～5に準ずる			実習	
10	学内 ①グループカンファレンスの実施 ②グループ学習内容の発表と討議				
11-12	①居宅介護支援事業所の組織・機能・活動の概略の理解			実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人・老年看護学実習 I		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
2年次／後期	135時間／3単位／17日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 成人期から老年期にある対象の健康の保持増進と、疾病予防の活動と保健医療福祉チームにおける看護の役割を理解する。また、対象の健康問題を理解し、慢性期・終末期の経過をたどる対象とその家族への看護を実践する能力を養う。					
【目標】 1. 成人期・老年期における対象の健康の保持増進と疾病予防の活動の実際を理解できる。 2. 健診(検診)センター、外来、透析室における看護の役割を理解できる。 3. 慢性的な疾病コントロールの経過・終末期の経過をたどる対象とその家族を総合的に理解できる。 4. 成人期・老年期にある対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し、日常生活動作(ADL)・QOLに対する援助が実践できる。 5. 成人期・老年期にある対象とその家族を取り巻く保健医療福祉チーム間の連携の必要性、必要な社会資源を考え、継続看護を学ぶ。 6. 慢性期・終末期における看護の役割を学ぶ。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	【慢性期・終末期】見学実習 検診センター:①健診センターで行われている健康管理の理解			実習	
2	病院(外来):①外来で行われている看護の役割についての理解			実習	
3	病院(透析室):①透析室で行われている看護の役割についての理解			実習	
4	学内 ①記録整理 ②技術練習 ③各実習施設の学びの共有				
5	【病棟実習】 ①病棟の特徴理解 ②受け持ち患者選定 ③受け持ち患者とのコミュニケーション ④日常生活要素の情報収集 ⑤疾患に関する情報収集			実習	
6	①受け持ち患者とのコミュニケーション ②日常生活要素の情報収集 ③疾患、症状の情報収集 ④バイタルサインの観察・報告 ⑤行動計画実施表の整理 ⑥情報の解釈・分析			実習	
7-9	①行動計画実施表の整理 ②情報の解釈・分析 ③看護問題の抽出ができる ④看護目標と計画立案 ⑤看護計画に基づいた実施 ⑥実施後の評価と修正			実習	
10-13	①看護問題の修正・追加 ②立案した看護計画の実施 ③実施後の評価修正			実習	
14-16	学内 ①看護計画の検討 ②看護実践における技術の再確認 1) 指導案及び媒体の作成と実施 2) 看護技術の確認と演習 ③終末期の紙上事例のグループワーク				
17	①受け持ち事例について				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人・老年看護学実習Ⅱ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 成人・老年期における健康問題を理解し、周手術期にある対象とその家族への看護を実践する能力を養う。					
【目標】 1. 周手術期にある対象とその家族を総合的に理解できる。 2. 対象とその家族のニーズを把握し、対象に応じた看護計画を立案し実践できる。 3. 対象とその家族を取り巻く医療チームとしての看護の役割や保健医療福祉チーム間での連携を理解することができる。 4. 手術室、集中治療室、救急外来室の環境を理解し、各部署の看護の役割を理解できる。 5. 実習を通して、急性期における看護の役割を述べるができる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	【急性期】見学実習 病院(集中治療室) ①集中治療室の特徴について理解 ②集中治療を受ける患者への看護の役割の理解			実習	
2	病院(手術室) ①手術室の環境管理の理解 ②手術を受ける患者に対する看護の役割 ③手術中の看護の理解			実習	
3	病院(救急外来) ①救急外来室の特徴について理解する ②救急患者への看護の役割を理解する			実習	
4	【病棟実習】 ①病棟オリエンテーション ②受け持ち患者の選定 ③受け持ち患者とのコミュニケーション及び情報収集 ④手術室、集中治療室、救命救急室の環境および看護の役割を理解する			実習	
5-7	①行動計画表の発表および実施 ②受け持ち患者とのコミュニケーション及び情報収集 ③患者の状態に合わせた援助及び観察 ④情報収集の整理及び解釈分析 ⑤看護上の問題の明確化・計画立案 ⑥実施した看護の評価・修正			実習	
8-10	①行動計画表の発表および実施 ②再アセスメント及び看護問題の修正・追加 ③社会復帰に向けて患者背景の把握、社会資源の理解及び情報提供 ④病棟で行われる特殊検査や治療の理解 ⑤成人看護学実習の最終反省及び振り返り			実習	
11-12	学内 受け持った患者の事例を通して、学びの共有				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
成人・老年看護学実習Ⅲ		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 健康障害・疾病をもつ高齢者・家族を理解し、適切な援助を提供できるように、多職種と連携した成人・老年看護実践能力を養う。復帰を見据えた退院調整、回復期リハビリテーション看護について、多職種との連携を通して看護師の役割を理解できる。					
【目標】 1. 成人期・老年期の身体的・精神的・社会的特徴やこれまでの生活史を踏まえ、成人期・老年期の対象及びその家族との信頼関係を築くことができる。 2. 成人期・老年期の対象の健康障害・健康レベルを理解し、科学的根拠に基づいた対象のアセスメントを行うことができる。 3. 個別性を踏まえたADL・QOLの維持・向上を目指した看護過程の展開ができる。 4. 成人期・老年期にある対象の生活史や個別性を踏まえた教育支援やリハビリテーション看護が実践できる。 5. 成人期・老年期の対象及びその家族を支える保健医療福祉チーム・多職種との連携を学び、地域で生きることを見据えた継続看護の意義が理解できる。 6. 実習を通して、自己の看護観を養う。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	【病院実習】 ①病院の機能・役割を理解する ②病棟の特徴を理解する:1日の流れを知る ③受け持ち患者の選定 ④受け持ち患者、家族とのコミュニケーションを通して情報収集(日常生活、ADL、病態)			実習	
2-3	①行動計画の発表・実施 ②受け持ち患者・家族とのコミュニケーション ③バイタルサインの測定・観察・報告 ④日常生活についての情報収集(健康障害・ADL・病態生理) ⑤受け持ち患者のADL評価 ⑥情報の解釈・分析 ⑦現病歴、既往歴について病態を関連させて(既習講義の思い起こしや調べ学習)考えることができる			実習	
4	学内 ・受け持ち患者に対する必要な知識・技術の確認をし、提供する援助が科学的根拠や個別性のあるものかについて確認する ・在宅復帰の視点をもった援助内容になっているか点検する				
5	①行動計画、看護計画に基づいて、受け持ち患者へ看護援助の実施 ②実施後の評価と修正 ③ケースカンファレンスを実施し、再アセスメント、計画の追加・修正を行う ④退院・転院に向けて社会資源の理解及び情報提供			実習	
6-8	①計画した援助を実施する ②再アセスメント及び看護計画の追加・修正・実施 ③退院・転院に向けて社会資源の理解及び情報提供 ④病棟で行われる特殊検査や治療の理解 ⑤必要な教育支援、アクティビティケア、リラクゼーションの実施			実習	
9	①計画した援助を実施する ②報告会を行う			実習	
10-12	学内 ①実習発表会を行う ②実習での作成物を提出する				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
小児看護学実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 小児看護における対象の特徴を理解し、健康段階に応じた子どもの成長発達を促すとともに、子どもと家族に必要な援助の実践を学ぶ。					
【目標】 1. 子どもの成長発達の特徴を理解し、基本的日常生活の自立状況に合わせた援助ができる。 2. 健康障害が子どもと家族に及ぼす影響を理解し、対象に必要な援助を実践することができる。 3. 多職種との連携の必要性やチームの一員として小児看護の役割について理解する。 4. 子どもの安全管理を理解する。 5. 小児科外来の看護師の役割を理解する。 6. 子どもの看護に関心を高め自己の看護観を深める。 7. 保育の実際をとおして、健常児の成長発達段階に応じた日常生活に必要な援助ができる。 8. 障害児の療育の実際をとおして、成長発達を促す方法を理解する。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	保育園実習 ①保育園ガイダンス ②成長発達に応じたコミュニケーション ③基本的生活習慣の観察 ④子どもの安全を守るための環境、保育の実際 ⑤カンファレンスおよび記録 小児発達支援事業所実習 ①事業所ガイダンス ②成長発達に応じたコミュニケーション ③基本的生活習慣と遊びの観察 ④子どもの安全を守るための環境、療育の実際 ⑤カンファレンスおよび記録 小児科外来実習 ①外来ガイダンス ②小児科外来の看護師の役割 ③身体計測・バイタルサインと等の実施 ④プレパレーションの見学と実施 ⑤外来・病棟・地域への継続性の実際 ⑥カンファレンスおよび記録			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
5	①受持ち患児の決定 ②受持ち患児の疾患や年齢に考慮した事前学習			学内実習	
6	①病棟ガイダンス ②受持ち患児、家族とコミュニケーション ③カルテからの情報収集 ④入院患児の処置・ケアの見学 ⑤受持ち患児の日常生活、成長発達の情報から全体像を把握 ⑥収集した情報をアセスメント ⑦カンファレンスおよび記録			実習	
7-11	①行動計画発表 ②バイタルサインの観察、フィジカルアセスメントの実施 ③ディストラクション・プレパレーションの実施 ④成長発達状況に応じた援助の実施 ⑤看護問題の明確化と看護計画の立案 ⑥カンファレンスおよび記録 ⑦ケースカンファレンス ⑧看護計画の見直しと看護計画に基づいた看護実践 ⑨受持ち患児を通して、小児の基本的技術を習得 ⑩医療・保健・福祉・教育の連携の理解			実習	
12	①発表会 ②記録の整理			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習			
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など		
母性看護学実習		企業実習		有無	有	
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類		
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習		
実習の目的と目標 【目的】 母性看護の対象を理解し、女性の健康に関する活動の実際を見学あるいは実施することで、保健医療福祉チームの一員としての役割を学ぶ。また、周産期における対象の心身の変化を理解、対象および家族に適した看護が実践できる基礎的能力を養う。 【目標】 1. 母性看護の対象と母性各期の特徴が理解できる。 2. 周産期における女性の心身の変化及び新生児の生理的变化を理解し、対象を中心にその家族に適した看護が実践できる。 3. 地域・施設の機能と母性看護の役割を理解できる。 4. 母子支援に対する社会資源を知り、母子保健医療福祉におけるサポートシステムが理解できる。 5. 実習を通して、自己の生命観及び母性・父性観を育むことができる。						
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)	
1	①助産所ガイダンス ②利用者とのコミュニケーション			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習	
2	③妊娠期・産褥期・育児期に至るまでの継続看護・保健活動の実際			実習		
3	①子育て支援センターガイダンス ②利用者とのコミュニケーション ③退院後の母と子の生活の理解			実習		
4	①診療所の役割と機能 ②不妊専門機関の特徴理解 ③継続看護の重要性の理解			実習		
5	①産科病棟のガイダンス ②受持ちケースの選定			学内実習 実習		
6	③受持ちケースへの挨拶 ④臨床講義					
7-9	①母性看護技術シミュレーション ①分娩立会い可能なケースの選定 ②分娩経過の把握 ③個別的な看護の実施 ④分娩見学を通して、生命の尊厳や新しい家族について考える			実習		
10	①指導者のもと、セルフケア能力を高めるための支援 ②アセスメント用紙の整理 ③看護問題・症状・影響因子の抽出 ④看護問題解決へ向けての支援計画 ⑤支援実施 ⑥実施した看護の評価・修正 ⑦情報の追加			実習		
11	①受持ち新生児の選定 ②受持ち新生児の一版状態の観察 ③日常生活の援助 ④諸検査の把握 ⑤出征直後の新生児の取扱い			実習		
12	①受持ち妊婦の選定 ②妊娠各期に応じたアセスメント ③妊婦診察の援助 ④個別指導の見学 ⑤集団指導への参加 ①発表会 ②記録整理・まとめ			学内実習		
使用テキスト				評価方法		
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習		
参考図書						

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
精神看護学実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／前期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 精神に障害のある人との関わりを通して、対象の特徴や対象を取り巻く環境を理解し、精神的健康の回復への援助を実践できる基礎的能力を養う。					
【目標】 1. 精神に障害をもつ患者の特徴を理解できる。 2. 対象の治療的環境を知り精神科の特性について理解できる。 3. 対象との相互作用の中で自己理解、他者理解に努め、看護師としての自分自身をみつめることができる。 4. 受け持ち患者のニーズを把握し、個性をふまえた看護過程の展開ができる。 5. 精神科病院および地域で行われている保健医療福祉のアプローチについて知り、多職種との連携の必要性やチームの一員としての看護の役割と機能について学ぶことができる。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1	①病棟ガイダンス ②受持ち患者の選定			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
2-3	③コミュニケーション及び情報収集			実習	
4	①受持ち患者とのコミュニケーション ②情報収集及び解釈・分析			学内実習 実習	
5-6	③看護上の問題の明確化 ④セルフケア能力に合わせた日常生活援助				
7-8	⑤プロセスレコードの記録 ⑥プロセスレコードの検討			実習	
9-10	①技術練習・文献学習			実習	
11	①看護計画の立案 ②立案した計画に基づいた実践				
12	③実施した計画の評価・修正			学内実習	
	①受持ち患者とのコミュニケーション、接し方の振り返り				
	②再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	③立案した計画に基づいた実践				
	④実施した計画の評価・修正 ⑤社会資源の種類と活用				
	①再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	②立案した計画に基づいた実践 ③実施した計画の評価・修正				
	④社会復帰に向けて患者背景の把握 ⑥病棟交換実習				
	①再アセスメント後、看護問題や優先順位を見直す				
	②立案した計画に基づいた実践 ③実施した計画の評価・修正				
	④社会復帰に向けて患者背景の把握				
	⑥病棟交換実習 ⑦最終報告会				
	①プロセスレコード検討会 ②受持ち患者の看護のまとめ発表				
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					

基礎分野	専門基礎分野	専門分野	専門分野臨地実習		
科目名		実務経験のある教員名		実務経験の反映状況など	
看護の統合と実践実習		企業実習		有無	有
年次／開講時期	時間数／単位数／実習日数			講義の種類	
3年次／後期	90時間／2単位／12日			実習	
実習の目的と目標 【目的】 臨地実習で習得した看護実践を行うための基礎的能力を生かし、複数患者の受け持ちや日勤帯を通した実習、看護チームの一員としての体験によって知識、技術、態度を統合し、臨床に即した看護実践力を身につける。					
【目標】 1. あらゆる発達段階にある対象を統合された存在として理解することができる。 2. 対象の尊厳を守り、複数患者に応じた援助技術を理論的根拠に基づいて安全に実践できる。 3. 複数患者の健康問題を統合的に把握し、健康レベルに応じた看護過程が展開できる。 4. 看護チームのチームメンバーおよびチームリーダーの役割を理解し、チームメンバーや多職種と連携を図ることができる。 5. 看護管理の実際を知ることにより、保健、医療、福祉チームにおける看護の役割と機能の理解を深める。 6. 日勤帯を通した夜勤から日勤への看護体制や業務内容を理解する。 7. 自己の看護実践能力を高め、主体的に学習し研鑽する基本的態度を身につける。 8. 統合実習を通して看護観を深め、看護師としての自己の課題を明確にする。					
実習日数	実習内容			教育方法	備考(その他時間)
1-4	①複数の受持ち患者や家族、看護チームメンバー、多職種とのコミュニケーション ②複数の受持ち患者の状況把握・状況判断 ③病棟の計画に沿ってケアを実施 ④複数の患者の看護問題の整理・看護計画の立案 ⑤看護計画の実施・評価 ⑥検査・処置の時間確認及び実施する援助の時間調整			実習	その他時間 実習前ガイダンス 事前学習
5-6	①病棟ガイダンス ②病棟内見学			見学・実習	
7-8	③看護管理の在り方見学 ④地域連携室見学			見学・実習	
9-11	①病棟リーダーの役割や業務内容についてガイダンス ②看護チーム、医師、多職種との調整			見学・実習	
12	③日勤病室担当看護師の業務見学 ④受持ち患者の状況把握・計画の実施 ⑤日勤から夜勤、夜勤から日勤への看護体制、業務内容の理解			学内実習	
使用テキスト				評価方法	
				・実習 ・実習記録 ・出席率 ★60点未満は、再実習	
参考図書					